

わたしと アーツカウンシルしずおか

Arts and me

幸田穂奈美

静岡文化芸術大学4年

属性の異なる人同士が、協働する仲間としてつながることのできる場（＝畑）をつくりたい、という思いを形にできたのは、AHSの助成制度による支援があったからです。2年前、このプロジェクト（「いろいろの畑プロジェクト」）にフィールドがあったら「特定非営利活動法人（NPO）を進められたことが自分の自信になったし、次のステップにもつながりました。

私のように「文化を軸に何かしたい！」と手探りで動いている人たちの背中を押してくれる新しい出会いが、AHSの制度や事業をきっかけにありここで生まれていると思います。AHSにはこれからも、地域の魅力ある人材や価値を掘り起こして、さらにそれらをつなげるハブ的存在であってほしいです。



水野哲雄

学校法人ふたば学園
ふたば幼稚園園長、
京都芸術大学名誉教授

「静岡を日本一クリエイティブな県にする」というアーツカウンシル長の加藤種男さんの意気込みと、「みんなが表現者」として、表現行為が旧来のアートの枠組みを超え「生きる」という視点で補足された、その方向性に強い共感を覚えています。

大人として社会化される中で、萎縮し忘れられていく「こども心」や、乳幼児の時期に持っていた「自然性」を私たちは育む必要があると考えています。そのために、囚われない「感じー知る力」を身体を通して表し、現すことが大切だと思います。アートという術と思考が「表現者」に行き着くよう、AHSは大きな役割を担っています。



PROFILE (上) 幸田穂奈美

静岡県森町出身。掛川市や浜松市を行き来し、たまに山や海外も。国際交流やそこで体感する「文化」に関心があり、「ひとつの共通項があれば私たちはつながることができるかもしれない」という仮説を日々発酵させている。自分の引き出しには畑、お芝居、キャンプ、教育があり、これらを掛け合わせて何かを生み出すことが好き。そのために、自分は発酵菌でありたいと願う。

PROFILE (下) 水野哲雄

1974年、京都工芸繊維大学大学院修了。芸術基礎、ベーシックデザインを専門とし、アートやデザインが社会課題を解決することを希望に活動している。「こども」と「アート」の視点で生き方を捉え返すアートと福祉の交差、生活ゴミの資源化を基にエコライフの愉しさを、コミュニティのアート化を追求中。クリエイティブな暮らしとは何か？創造的に生きるとはどういうことか？



深澤 準弥

松崎町長

町になまこ壁や「松崎まちかど花飾り」の活動といった文化的な要素があることで、道にゴミがなく、雑草が放置された場所もないという町民文化があると言えます。常々、地域活性にはアートが必要だと思っており、A/Cの助成事業が町内で展開されることで、新たな価値観や感性が持ち込まれています。アートと町民の共同作業は、DNAのように受け継がれている町の潜在能力を引き出される機会になっていると感じています。町の寛容性を育んでいると感じています。

PROFILE
1990年の松崎町役場入庁後、税務課、建設課、教育委員会事務局、健康福祉課、総務課、企画観光課を歴任。2021年10月に退職し、2021年12月より現職。若い頃から消防団や祭りなど地域活動に積極的に参加しており、地域住民からの信頼は厚い。松崎海岸の清掃活動を10年以上続けており、最近では仲間とともに耕作放棄地の草刈りなど景観維持に尽力している。
(写真右から8人目)

同質の集まりになりがちな所に新しい風をいれる、価値観の衝突も含めて人が出会う、失敗できることも評価するなど、A/Cはアートだからこそ可能なことをうまく生かして事業展開していると興味を持っています。特に、人に着眼点を置いていることが特徴的で、人と人、人と地域といった出会いをつくり、社会構造の中で表面化していない課題も含めアートによってアプローチすることで、まったく予想されなかった解決策が生まれる可能性を高めていると考えています。

歴史の中で作り上げられてきた文化もとても大事ですが、50年、100年先を見据えて文化をつくること、大きく言えば地球規模でも通じるアートの役割を示す。大変難しいことですが、全国のアーツカウンシルの中でも先進的な存在と言える静岡には、敢えてそこを期待したいです。

PROFILE

韓国ソウル特別市生まれ。韓国の国立オペラ団で演出助手・制作に携わり、2000年に文化庁海外招聘研修生として来日し、東京室内歌劇場でオペラ制作を担当。その後、東京藝術大学大学院に入学し応用音楽学専攻修了(学術博士)。2006年2月から北海道教育大学に在職。近年は、地域アーツカウンシル、多文化共生、アートマネジメントの人材養成、アーティストの福祉政策等、様々な領域に研究を広げている。日本文化政策学会・日本音楽芸術マネジメント学会理事を務めている。公益財団法人北海道文化財団「令和2年度アート選奨」受賞。



ミンジンキョン

北海道教育大学岩見沢校
芸術文化政策研究室准教授

株式会社

中島屋ホテルズ



駿河竹千筋細工、駿河和染、木工指物、静岡挽物の組み合わせによって製作されたオブジェ「Nakajimaya Crossing」は、1階ロビー、フロント、玄関ファサードで見ることができる



ローカル案内コーナー「おまちのハコ」は、「おまち」の人にインタビューした小話、本棚、ポストカードで構成されている

PROFILE

1916年(大正5年)に中島屋旅館を開業。葵区紺屋町の中島屋グランドホテルを中心に、ガーデンホテル静岡、焼津グランドホテル、焼津四川飯店&ガーデンズ、藤枝四川飯店&ガーデンズを展開。静岡のローカルホテルとして、非日常でありながら居心地が良く、地元へ愛されるホテルを目指し、「心をこめる中島屋」をスローガンとして200年目に向かって邁進中。2011年からは米国ニューヨーク市マンハッタンにてサービスアパートメント事業を開始、2024年には地元アーティストや地元伝統工芸の職人によるオリジナルアートオブジェを制作しホテルロビーに設置するなど、新しいチャレンジの手を止めない。

鈴木健太郎代表取締役社長(写真前列右から4人目)

地元資本のホテルとして、次の時代を生き抜いていくためにソフトラワーの底上げを考えていた際に、AFCとの出会いがありました。相談窓口から今回の実施に発展しましたが、アーティストたちとの取組みは、社員が「ローカル」というテーマに対して固定概念に縛られてしまいがちなところを和らげてくれました。さらに潜在的なニーズや願望を取り出して、社員に見せることができたことは成果だと言えます。私は社長として大枠の概念的な部分を生み出す役割を担っていますが、具体案として自分が考えもしなかったアイデアが提案されることを心地よいと感じますし、そうでなければ変化する価値観に対応していくことは困難です。今回のような、創造的な共同作業や、日頃接点のない人たちとの出会いは大切だと感じています。また同時に、自分たちだけでオペレーションに比重が偏ってしまったりするので、AFCのように間に立つってバランスをとったり、翻訳したりする存在の必要性も感じます。



「食通」の相手になってくれた八戸美術館へ送る食材を相談する(上段)。厳選した食材(下段)。

「クリエイティブ人材派遣制度」は、企業や自治体とアーティストの出会いを後押しするために2022年度からAFCが導入した仕組みです(FC参照)。株式会社中島屋ホテルズは当制度を活用し、幹部職員への研修と、伝統工芸技術の活用に関する意見交換を実施しました。「最強のローカルホテル」を目指す同社は、各社員が自分なりに「ローカル」を考え、仕事の中で表現してほしいという意向を持っていました。今回の研修では、社員が「ローカル」に向き合う時の思考を柔軟にすることを目的とし、アーティストのEAT&ART F&R O氏を講師に迎え、手紙の代わりに食べ物を送り合う「食通」というプログラムを実施しました。また、ローカルの象徴として静岡の伝統工芸を取り上げ、プロダクトデザインを専門とするUO(ウオ)と共に、活用アイデアを出し合うミーティングを重ねました。運営方針につながる「伝統と革新」を、4つの伝統工芸技術の融合によって表現したこの取組みは、オブジェの製作へと発展し、1階ロビーなどホテル内3ヶ所で見ることができます。同じくクリエイティブ人材として参加した、静岡市内でまちづくり事業をおこなうシズオカオーケストラとの出会いは、その後、ホテル内のローカル案内コーナーの設置へと展開するなど、クリエイティブ人材が活躍する場面の拡大が見られます。

アートカウンシル
しずおか



今年度の

10大ニュース

4月... 企業公式キャラクター「しずおこちゃん」デビュー

ArtSの調査事業「クリエイティブ人材副業調査(2022年度)の結果に基づき、県東部の総合商社・(株)東平商会と画家・原口みなみ氏とのマッチングが実現。アーティストのお試し副業として、原口氏による企業キャラクターの制作が年度をまたいで進み、4月のお披露目に至った。



©minamiharaguchi

8月... MAWが静岡新聞政治面に登場

3年目を迎えた「マイクロ・アート・ワーケーション」(p.38)が、8/2付け静岡新聞の県内政治面に登場。ArtSの取組みが政治面に取り上げられるのは初めてのこと。地域の魅力を発信し、関係人口増加につながる事業として、趣旨や実績が詳しく紹介された。

6月... 韓国で講演

ArtSの取組紹介のため、「文化都市・洪城有機的国際フォーラム(洪城郡)と、「楊林路地(ヒョンナール)のセミナー(光州広域市)に招聘された。



8月... AIC長、静岡県総合計画委員に就任

加藤アートカウンシル長が静岡県総合計画審議会の委員に就任し、審議会に出席。

9月... 「ふむむむ程度。」の制作

静岡県社会福祉協議会が地域福祉教育副読本「ふむむむ程度。」とそのガイドブックを作成、県内の中学2年生全員に配布した。ArtSは編集とデザインに関わり、県内のイラストレーターやアーティストを起用し、思考を深める仕掛けを散りばめた。



▲PDF版ダウンロード

10月... avexが運営するYouTube番組に出演

MAWの助成制度「文化芸術による地域振興プログラム」実施団体が、登録者数67万のYouTubeチャンネル「MEET YOUR ART」に出演し、人が生きることでアートをテーマに活動を紹介した。



▲動画はこちらから

10月... 「MIRA!2023」オンライン交流

一般社団法人日本国際協力センターからの依頼を受け、欧州及び中央アジア、コーカサス地域の青年に対する対日理解促進交流プログラムの一環として、ArtSの取組みをオンライン講義で紹介した。

11月... フォロワー1,000人突破

ArtSの公式Facebook、Instagramのフォロワー数が1,000人を超えた。フォローありがとうございます。Xに毎日投稿中「#今日のアートカウンシル」も、じわじわ好評との噂。

2024年3月... 「震災とアート」に登壇

アートカウンシル金沢の活動報告会にて、加藤アートカウンシル長が被災地におけるアートプロジェクトの事例紹介やその成果などについて講演を行い、あわせてオンライン配信を実施した。

講師依頼ぞくぞく

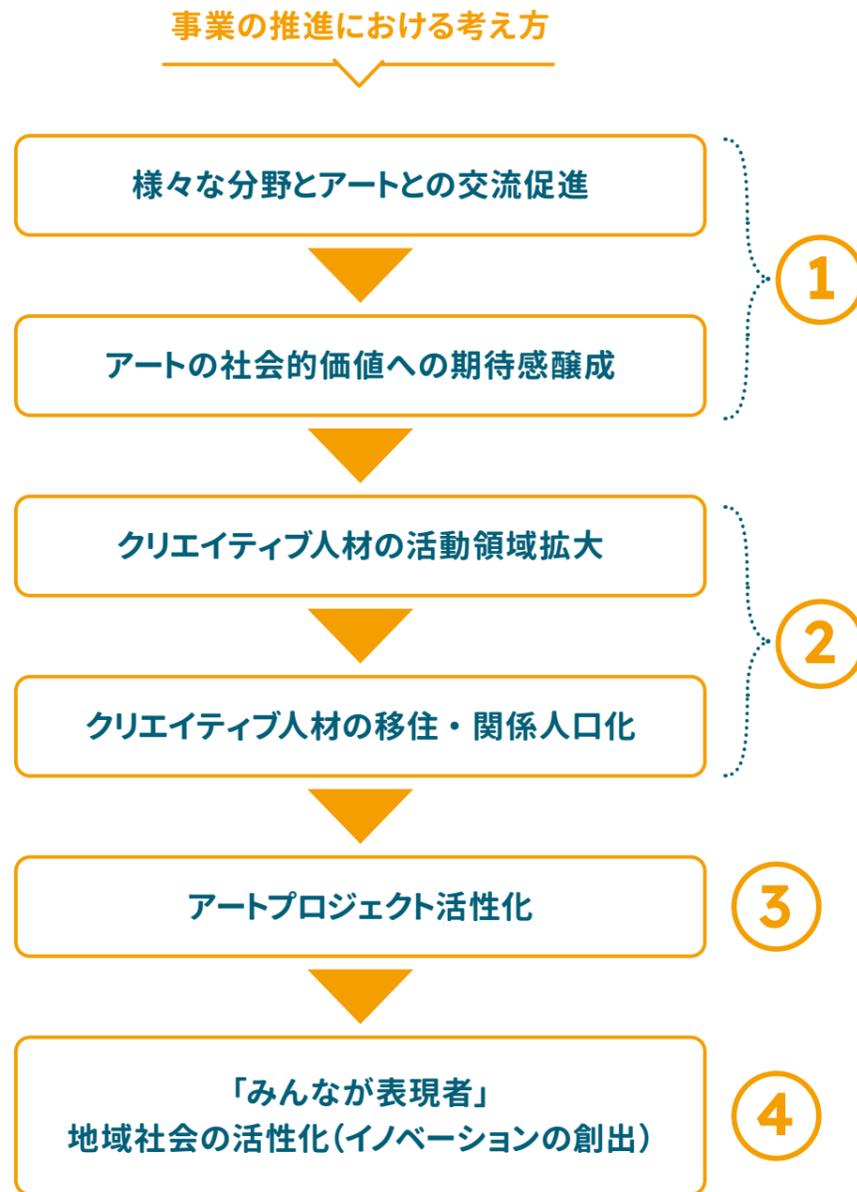
講演、審査など、各方面から多くの依頼を受けるようになった。詳しくはP.39「専門スタッフ出演・登壇リスト」に掲載。

もくじ

- 01 わたしとアートカウンシルしずおか
 - 幸田穂奈美、水野哲雄
 - 深澤準弥
 - 関鎖京
 - 株式会社中島屋ホテルズ
- 06 アートカウンシルしずおか 今年度の10大ニュース
- 07 もくじ
- 08 SUMMARY/2023年度(令和5年度)アートカウンシルしずおか事業概要
- 10 文化芸術による地域振興プログラム
- 16 column 1「住んでいる町でアートプロジェクトを実践する」児玉絵美、山森達也
- 17 — 地域クリエイティブ支援
- 28 — 助成団体データ
- 29 — 地域はじまり支援
- 34 — 伴走支援
- 38 マイクロ・アート・ワーケーション(MAW)
- 42 column 2「MAWってなんだ?」ちえんしげ、早瀬仁美
- 43 超老芸術展
- 47 アートによる空き家活用 fresh air
- 48 — クリエイティブ人材空き家等活用モデルプログラム
- 50 — アートによる空き家活用の検討(ワーキンググループ)
- 51 column 3「あさになったのでまどをあけますよ」立石沙織
- 52 その他の取組み
 - 52 — クリエイティブ人材派遣制度
 - 53 — 創造トークス、MAW 茶会
 - 54 — アートプロジェクトのつくり方「きかくの場」、第2回アートプロジェクト視察研修
 - 55 — 相談窓口、文化とくらしに関する意識調査
 - 56 アニュアルレポート2023に添えて 加藤種男「みんなでつくり、みんなで楽しむアートプロジェクトの原点は郷土芸能にあり」
- 58 SUPPLEMENT/補足
- 60 PROMOTION/広報
- 62 LIST OF APPEARANCE/専門スタッフ出演・登壇リスト
- 63 BOOK SHELF/ArtSの本棚

2023年度(令和5年度)アーツカウンシルしずおか事業概要

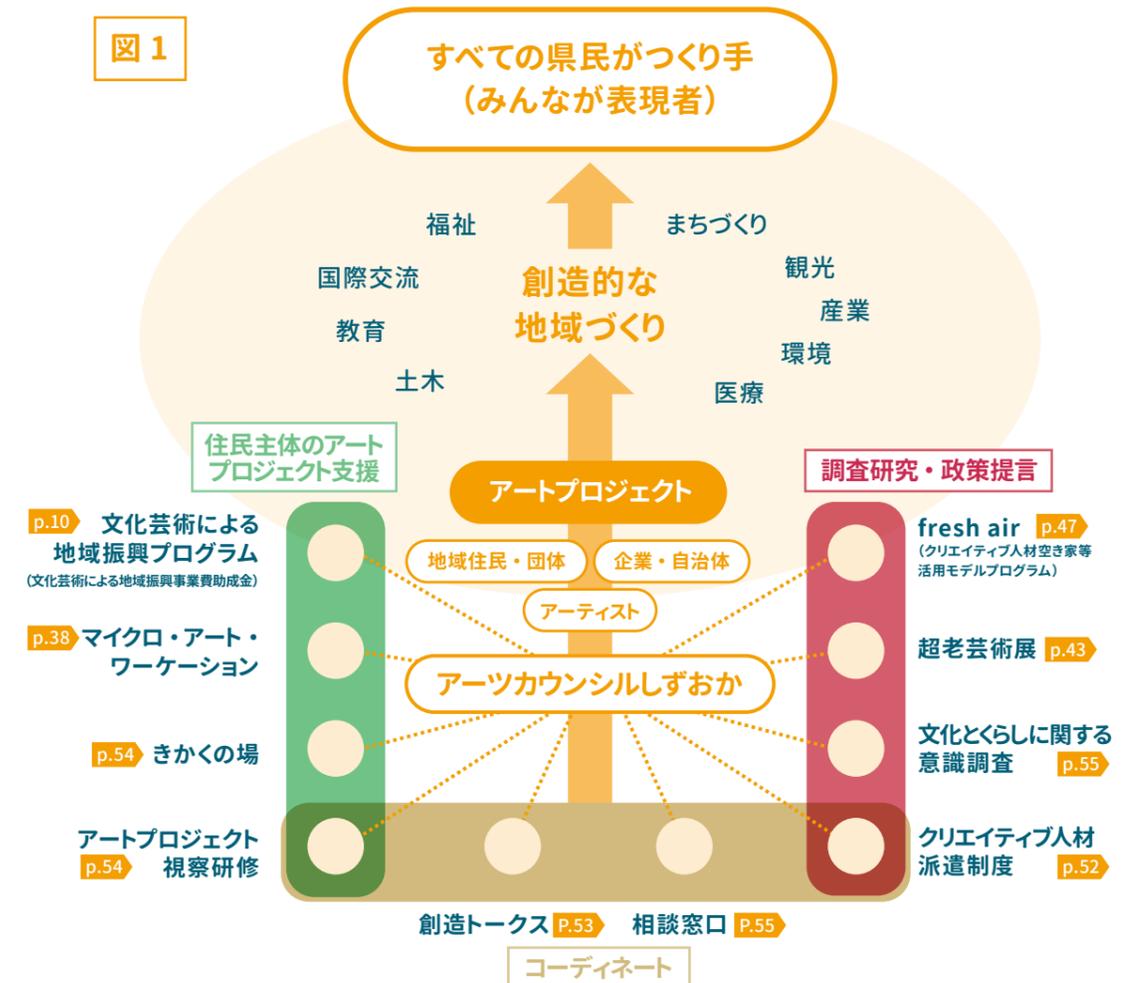
図2



この図は、アーツカウンシルしずおかが目標とする、「みんなが表現者」となり地域社会の活性化につながる考え方を、ステップに分けて表している。

- ① 社会の様々な分野との交流を促進し、アートの社会的価値を県民に知らせる。
- ② アーティストやアートディレクターなどのクリエイティブ人材の県内での活動領域拡大により、クリエイティブ人材の移住や関係人口化を促し、県民にとって身近な存在となる。
- ③ 地域住民とクリエイティブ人材が一緒に取り組むアートプロジェクトが活性化する。
- ④ アートプロジェクト等の文化芸術活動を通じて、すべての人々の中にある創造性が引き出され、地域の様々な場面におけるイノベーションが促進される。

図1



「みんなが表現者」へのステップ

アーツカウンシルしずおかは、文化芸術が人々の創造性を引き出し、まちづくりや観光、福祉、教育、環境、産業など様々な分野の地域課題の解決や地域資源の活用の糸口となり、地域社会が活性化することを目標としている。

2023年度事業は、図1のとおり「住民主体のアートプロジェクト支援」、「コーディネート」、「調査研究・政策提言」の3つの柱に大分されるが、図2「事業の推進における考え方」に表した項目に各事業を対応させ、同時並行で取組んだ。

図2内①に対応するものとして、県内各地にクリエイティブ人材^{※1}が短期滞在する「マイクロ・アート・ワーケーション」や、企業や自治体にアートの活用を体験してもらう「クリエイティブ人材派遣制度」を行うとともに、“高齢者×アート”、“コミュニティ政策×アート”、“空き家対策×アート”の3つのテーマを掲げ「創造トークス」を開催した。この内容については、さらに調査研究を続け、政策提言につなげることを予定している。

②については、空き家問題に対してアートの視点から解決策を探る「クリエイティブ人材空き家等活用モデルプログラム事業」に着手し、クリエイティブ人材がいかに関与できるか試行した。

③については、「文化芸術による地域振興プログラム」を通じ、県内各地の26件のアートプロジェクトに伴走支援を伴う助成をしたほか、アートプロジェクトの担い手となる住民プロデューサー^{※2}育成のために講座「きかくの場」を開催した。

※1 関わる人々の創造性を引き出す、アーティスト、アートディレクター、アートマネージャー、キュレーター等をArtSでは「クリエイティブ人材」と定義している
 ※2 社会の様々な分野に軸足を置き、地域に根ざしたアートプロジェクトを推進する人や団体を指すArtSの造語

2023年度 実施団体の活動拠点



地域クリエイティブ支援 (19件)

他地域や当該分野のモデルとなる先駆的なアートプロジェクト
(助成金額上限 500 万円)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 松崎まちかど花飾り実行委員会 | 11 NPO 法人こころのまま |
| 2 GAKKO PROJECT | 12 宗教法人大中寺 |
| 3 PROJECT ATAMI 実行委員会 | 13 室野地農工商組合 mA-FaB |
| 4 一般社団法人熱海怪獣映画祭 | 14 吉原中央カルチャーセンター |
| 5 熱海未来音楽祭 | 15 竹部(パンプ) |
| 6 NPO法人 atamista | 16 藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会 |
| 7 しゃぎりフェスティバル実行委員会 | 17 NPO法人クロスメディアしまだ |
| 8 三島アートプロジェクト実行委員会 | 18 浜松ちまた会議 |
| 9 Lab Qrio (ラボキュリオ) | 19 SMS |
| 10 Cliff Edge Project | |

地域はじまり支援 (7件)

アートプロジェクトの実施に向けた試行的な取組
(助成金額上限 30 万円)

- | |
|----------------------------|
| 20 TOWA 紫陽花プロジェクト実行委員会 |
| 21 Working Space Bagatelle |
| 22 きてんきち |
| 23 NPO 法人 静岡あたらしい学校 |
| 24 “まち”と“好き”であそぶ人たち |
| 25 NPO 法人ヒト・マチ・プロジェクト |
| 26 つくるぞうのへや |

※東部、中部、西部の順で並んでいます

キックオフミーティング



日時：2023年5月31日(水)
会場：グランシップ 6F 交流ホール

成果報告会



日時：2024年2月12日(月・祝)
会場：BIVI キャン (静岡産業大学藤枝駅前キャンパス×藤枝市産学官連携推進センター)



ArtS for Regional Development subsidy

2023年度

文化芸術による

地域振興プログラム

アーツカウンシルしずおかによるアートプロジェクト支援制度。地域資源の活用や社会課題への対応を目指す先駆的な取組みを県内から公募し、採択事業に対して単年度支援を提供する。2023年度は、まちづくりや観光、福祉、教育、産業、文化芸術など多様な分野の担い手による26件の取組みを支援した。

これらの取組みについては、経費の一部を助成すると共に、アートマネジメントの専門家であるプログラム・ディレクターやコーディネーターが、団体のニーズに応じて助言等の伴走支援を行った。

6 南熱海における身体表現文化の拠点設立に向けた事業 (NPO法人 atamista)



7 地域コミュニティ活性化に向けた伝統芸能活用プロジェクト(しゃぎりフェスティバル実行委員会)



8 三島アートプロジェクトによる街中にぎわい創出事業 (三島アートプロジェクト実行委員会)



9 つくって発見☆こどもアート de サステナブル!
~ハイザイ・ハザイのクリエイティブ・リデュースでこどもを育むプロジェクト~ (Lab Qrio)



10 Cliff Edge Project うぶすなの水文学 (Cliff Edge Project)



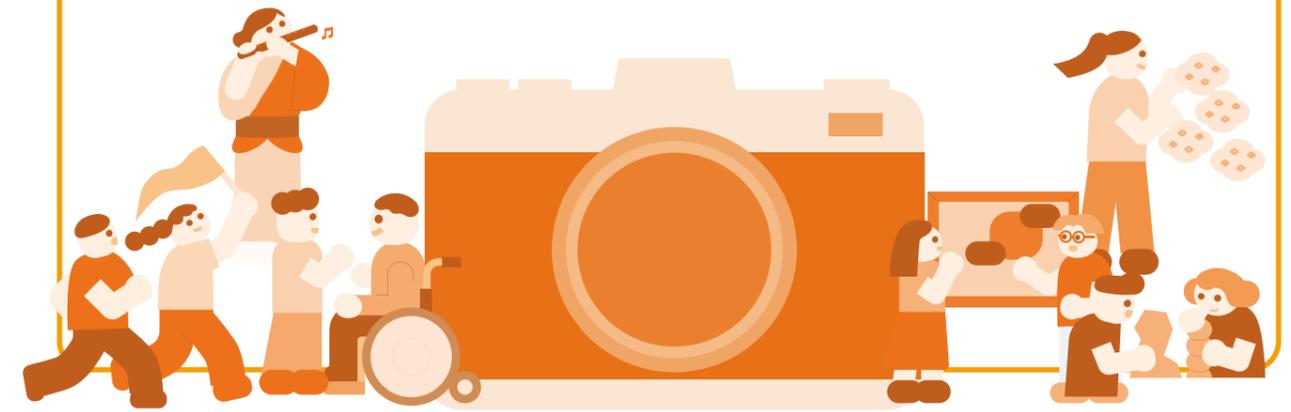
11 心のままアートプロジェクト (NPO 法人こころのまま)



12 YOKODO33 (宗教法人大中寺)



2023年度 文化芸術による地域振興プログラム 活動写真



1 松崎まちかど花飾り (松崎まちかど花飾り実行委員会)



2 GAKKO PROJECT ~自然と文化の伊豆半島学びなおしの旅~ (GAKKO PROJECT)



3 熱海の街と人を繋ぐ地域コーディネーター育成プロジェクト (PROJECT ATAMI 実行委員会)



4 第6回熱海怪獣映画祭 (一般社団法人熱海怪獣映画祭)



5 第5回熱海未来音楽祭 (熱海未来音楽祭)



20 TOWA 紫陽花～あじさい ART プロジェクト～ (TOWA 紫陽花プロジェクト実行委員会)



13 murono 尋常生学校 (室野地農工商組合 mA-FaB)



21 暮らしの根っこを考えるワークショップ～普段の生活から河津町の“今”を見つめる～ (Working Space Bagatelle)



14 HELLO YOSHIWARA ～吉原商店街に出会おう！～ (吉原中央カルチャーセンター)



22 アートや文化のある日常への“きてん”をつくるプロジェクト (きてんきち)



15 竹林劇場プロジェクト「タテからヨコに広がる竹林劇場」(竹部)



23 あるもので演劇 演劇×オルタナティブ教育×オクシズ (NPO 法人静岡あたらしい学校)



16 藤枝ノ演劇祭3 (藤枝宿世代をつなぐ商店街づくり実行委員会)



24 見えてるようで見えていない“まち”に気づく・見つけるアートプロジェクト (“まち”と“好き”で遊ぶ人たち)



17 UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川を軸とした大井川流域アートプラットフォームづくり (NPO 法人クロスメディアしまだ)



25 つくって・みつめて・みつけよう～子どもたちの手からはじまる～ (NPO 法人ヒト・マチ・プロジェクト)



18 浜松中心市街地を福祉 (well-being) を軸に編みなおす
～多様な隣人と出会い、対話し、協働する機会と祭りの創出～ (浜松ちまた会議)



26 デモクラティックスクールび～だどつくる人々 (つくるぞうのへや)



19 浜名湖のその先へ～Re-blooming～ (SMS)





地域 クリエイティブ 支援

CREATIVE
CATEGORY

住んでいる町でアートプロジェクトを 実践する「住民プロデューサー」

地域住民の技術や知識が発揮されるよう、
フラットな関係をつくる

「UNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川」は、島田市と川根本町の2つの市町を走る大井川鐵道の無人駅や周辺集落を舞台に、アーティストと地域の方々が共に創り上げるアートプロジェクトです。

もともと私たちは地域づくりを主な事業とするNPO団体ですが、行政や福祉では手が届かない領域や、人口など単純に数だけでは評価できないものへのアプローチに課題を感じていました。そこで、アートを媒介にすることによって分断された領域に目を凝らし、光を当て、新しい価値を見出す地域づくりをしようと考えました。

このプロジェクトの目的は、アートを活用して地域を見てもらい、そこで暮らす人々と触れ合ってもらおうこと、そして地域の方たちが土地に愛着を感じ、内発的に変化していくことです。そのため、アーティストの方たちには必ず地域のリサーチを行ってもらい、ここでしか見られない、この地域を表す作品の制作を依頼しています。私たちの主な役回りは、アーティストと地域の方たちが協力して制作できるよう、お互いにリスペクトし合えるフラットな関係性を築くことです。もともと地域の方たちは農作業や手仕事など、ものづくりに長けた方ばかり。そのような方たちが自分の技術や知識を発揮して主体的に動けるよう、アーティストとの交流の場を設け、参加者と1対1の関係性をつくって丁寧に対話を重ねることを心がけています。

静岡県島田市在住。大学卒業後、地元に戻り川根町商工会（現島田市商工会）に勤務。2012年からNPO法人クロスメディアしまだ事務局長として、静岡県中部地域における地域振興・コミュニティ支援などに従事。2018年からUNMANNED 無人駅の芸術祭／大井川の総合プロデューサーとしてアートによる地域づくりを実践するほか、行政や地域団体との連携を強化しながら「地域情報誌発行事業」、「子ども向け社会教育事業」など事業分野を広げて活動している。



兒玉絵美
NPO法人
クロスメディアしまだ
事務局長

芸術祭を通じて、 関わってくれる地域住民の下心を叶えたい

私たちが主催する「三島満願芸術祭」は、アートに興味がある人に三島を訪れてもらうことで、三島の関係人口を増やし、街中を活性化していくことを目的としています。私自身、アートとは無縁でしたが、マイクログラフィック・ワークショップにホストとして参加した際に、アーティストの視点の面白さや、作品を介して対話を深める人々を目の当たりにし、アートの力で地域と人をつなげられるのではと考え、芸術祭の立ち上げに至りました。

実行委員長としての私の主な役割は、資金集めや人集め、展示会場の確保です。なかでも展示会場である空き店舗の確保には苦労しましたが、大家さんには、展示を見るところというきっかけで物件に足を運ぶ人が増えることをメリットとして伝え、会期後にテナント契約まで至ったケースもありました。この芸術祭は、友達をつくりたい、アーティストと喋ってみたい、商店街に人を呼び込みたいといった、地域の方たちの下心でできていると思っています。芸術祭を通じてその一つひとつが叶っていくことが私の下心です。私が地域の方たちと来訪される方たち、双方の気持ちを抱き、その間でアートを介在させる事業企画ができていくのは、家族と共にこの町に根付き、関係人口拡大というテーマに取り組んでいるからこそだろうと思っています。



山森達也
三島アートプロジェクト
実行委員会 実行委員長

2019年春に静岡県三島市に移住。2021年6月に三島市で株式会社シタテを創業。三島市の中心地でコワーキングスペース「三島クロケット」、ゲストハウス「B&B」、月単位で滞在できるレジデンスを運営。2023年にアーツカウンスルしずおかのアソシエイトに就任し、まちづくりや観光、福祉、教育など、社会の様々な分野と文化芸術との連携を進める活動に参加。また同年に三島アートプロジェクト実行委員会として「三島満願芸術祭」を立ち上げるなど、三島市の関係人口創出に貢献する活動を行っている。

アーツカウンスルしずおかでは、地域に展開するアートプロジェクト運営において、アーティストと地域住民の間に立つ事業推進を担う存在が重要な役割を果たすという考えの下、その存在を「住民プロデューサー」と名付けています。「住民プロデューサー」は、事業を実施する地域、もしくはその近隣で暮らし、そこを通じて得るネットワークや情報を有効活用してアートプロジェクトを推進し、住民や団体を巻き込み、その効果を地域に展開させる道筋を描きます。各々の考えを元に実践されている「住民プロデューサー」の思いや手法をお聞きしました。

2 GAKKO PROJECT ~自然と文化の伊豆半島学びなおしの旅~

団体名: GAKKO PROJECT | 地域: 伊豆市、東伊豆町 他



● GAKKO PROJECT 全7回講座

[実施日程] 2023年5/20, 7/2, 8/26, 9/30, 10/7, 11/19, 2024年1/13

[会場] 壺中天の本と珈琲、焚き火の宿 農木労、長倉書店、伊豆山神社、あいぞめ珈琲店、南豆ジビエ工房、動物園予備校アニマルキーパーズカレッジ

👤 関係者数: (延べ) 30人

あわやのぶこ(知半アートプロジェクト代表/文筆家)、中村大軌(南伊豆米店)、細川光洋(静岡県立大学国際関係学部教授)、深澤太郎(國學院大学博物館准教授)ほか講師、トークゲスト等

豊かな歴史文化に恵まれた伊豆半島。この地の知的資源の再発見により“民の力”を育み、地域活性の第一歩となる小さな場を作り出したいという思いで立ち上げられたプロジェクト。農業、文学、ジビエなど多岐に渡るテーマに沿って伊豆半島の各地を訪ね、体験や視察、地域歩きを含めた大人のゼミのような講座を全7回開催した。

(次年度は)プロジェクトで
得た新たな気づきを
さらに深掘りする年に!

うたの
田邊 詩野さん



地域クリエイティブ支援

対象: 地域資源の活用や社会課題への対応を目指す先駆的なアートプロジェクト

助成金額上限: 500万円

助成率: 助成対象経費の3/4以内、または1/2以内 ※団体区分による

○ 実施プログラム

団体名: ○○○○○○○○○ | 地域: ○市(町)



●「○○○○○○○○」
【実施日程】○年○/○-○/○
【会場】○○○○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○

👤 関係者数/(延べ)○人
○○○○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○

団体代表者コメント○○○○○
○○○○○

○○○さん

2023年度事業の中で実施した
主なイベント等の概要

イベント来場者数ではなく、団体
構成員はじめ事業の企画運営に
関わった人数を示す

3 熱海の街と人を繋ぐ 地域コーディネーター育成プロジェクト

団体名: PROJECT ATAMI 実行委員会 | 地域: 熱海市



●「熱海の魅力MAP」ヒアリング会

[実施日程] 2023年7/20, 9/29

[会場] ArtBar&GuestHouse ennova、バーコマド

● 熱海の魅力発信トークイベント

[実施日程] 2023年11/23

[会場] 尾崎ランドビル

👤 関係者数: (延べ) 27人

佐藤諒、村山純夏、八木静楓(公募で選ばれた地域コーディネーター)、芹澤亜由美(アーティスト/ヨガ講師)、水田雅也(アーティスト)ほか熱海在住在勤者等

これからも熱海の魅力をアートに
より再発見していきます!

はるか
伊藤 悠さん



熱海の魅力をアートにより再発見するために生まれたプロジェクト。2023年度は、公募により選ばれた3名の“地域コーディネーター”が熱海の住民や商店街に取材を行い、アートという視点から魅力的な熱海の住民やスポットを集約させた「熱海の魅力MAP」を作成した。

1 松崎まちかど花飾り

団体名: 松崎まちかど花飾り実行委員会 | 地域: 松崎町



●『松崎まちかど花飾り』

[実施日程] 2023年10/21~11/12

[会場] 仲宿通り、なまこ壁通り周辺、長八美術館、民芸館、明治商家中瀬邸、伊豆文邸、浜丁、岩科重文学校、松崎小学校

👤 関係者数: (延べ) 163人

持塚三樹(美術家)、UMAHANA(レイメイカー)、地元園芸家、花の会、松崎町商工観光係、松崎町民、実行委員会等

松崎町に現存する明治期の建物や蔵、なまこ壁の町並みを舞台に、町民による花をつかった作品展示のほか、“渡り蝶”アサギマダラの飛来誘引の取組を実施し、町民の表現活動を町の観光につなげていく芸術祭。開催3年目を数え、町民がアーティストとともに地域資源の発掘や共創に取組むなど、回を重ねるごとに新たな展開を取り入れている。

「花とロマンの里」
町民の“まちかど花飾り”に
定着させる

すすむ
渡辺 攻さん



6 南熱海における身体表現文化の拠点設立に向けた事業

団体名：NPO 法人 atamista | 地域：熱海市



熱海の南側、多賀・網代地区にある「小山臨海公園」を中心に、地域住民をはじめとする人々が継続的に文化芸術に触れられる環境を作るため、身体表現分野の合宿を受け入れる文化拠点を創出するプロジェクト。パフォーマーによる地域へのリサーチや、市内の保育園や小学校等でのワークショップを通して地域のネットワーク形成を図った。

● 地域の子どもたちに向けたワークショップ

[実施日程] 2023年 11/1, 2, 9, 18, 29
[会場] 初島小学校・中学校、あたまこども園、和田木保育園、第一小学校、泉幼稚園、多賀幼稚園

● 報告会『みらいのぶたいへのおどり』

[実施日程] 2023年 12/23
[会場] 小山臨海公園

👤 関係者数：(延べ) 23人

米澤一平(タップダンサー)、Kai MiWA(ダンサー)、康本雅子(ダンサー/振付家)、ワカバコーヒー(舞踏/舞踊)、川村美奈(ダンサー)、手代木花野(コンタクトインプロヴァイザー)、一般社団法人 Meets by Arts 等

公共体育施設の文化利用に関して、継続的に可能性を模索します!

市来 広一郎さん



7 地域コミュニティ活性化に向けた伝統芸能活用プロジェクト

団体名：しゃぎりフェスティバル実行委員会 | 地域：三島市



三島市の伝統芸能「三島囃子」のうち、江戸時代に発祥したとされる祭り囃子「しゃぎり」の永続的発展のため、「しゃぎりフェスティバル」の開催を中心とした多面的な活動を展開。2023年度は地域伝統芸能の継承活動の価値に改めて目を向け、シンポジウムの開催などを通じて「しゃぎり」を活用した地域活性化などの可能性を示した。

● 『しゃぎりフェスティバル 2023 ～魅了～』

[実施日程] 2023年 9/3
[会場] 三島市民文化会館 大ホール

● シンポジウム「みんなで考える地域伝統芸能の価値」

[実施日程] 2024年 2/11
[会場] 三島市民文化会館 小ホール

👤 関係者数：(延べ) 249人

俵木悟(民俗学・文化人類学)、田仲桂(NPO 法人 民俗芸能を継承するふくしまの会)、樋口勇輝(映像作家)、三島市観光協会、しゃぎり保存会 等

三島の地域伝統芸能、祭り囃子「しゃぎり」を未来へ届けたい!

福田 勝彦さん



4 第6回熱海怪獣映画祭

団体名：一般社団法人熱海怪獣映画祭 | 地域：熱海市



特撮や怪獣映画のロケ地となった街から「怪獣の聖地・熱海」を発信し、怪獣ファン、クリエイター、熱海市民を密に繋げて、地域の文化振興、観光活性化やまちづくりへの寄与を目指す映画祭。作品上映や屋外イベントに加え、怪獣をテーマにした子ども向けのワークショップを実施するなど、内容に広がりを見せている。

● 『第6回熱海怪獣映画祭』

[実施日程] 2023年 10/7～9
[会場] 熱海芸妓見番、ホテル大野屋、熱海親水公園

● 新怪獣お絵かきコンクール 2023

[実施日程] 2023年 7/1～8/31(作品公募期間)

👤 関係者数：(延べ) 190人

伊藤和典(脚本家)、井上誠(音楽家)、開田裕治(イラストレーター)、樋口真嗣(映画監督)ほか怪獣映画関係者、ゲスト、出店者、協力協賛企業・団体、熱海商工会議所、熱海市観光協会 等

他団体とも連携を取り、皆が楽しい映画祭イベントにしていきたい

水野 希世さん



5 第5回熱海未来音楽祭

団体名：熱海未来音楽祭 | 地域：熱海市



ジャンルや国境を超え、非常に親密かつ未来を拓く力を持つ「表現の今、ここ」を求め、「即興」を通して、その場でしか生まれない音楽を街の風景と共に作り上げる音楽祭。2023年度は音楽祭の運営準備と並行して、これまで構築してきた熱海市内の文化団体間のネットワークを活かし、団体同士で情報提供や意見交換を行うミーティングを複数回開催した。

● 『第5回熱海未来音楽祭』

[実施日程] 2023年 10/1, 9, 20～22
[会場] 起雲閣音楽サロン、Atelier&Hostel ナギサウラ、EOMO Store、サンビーチ、熱海仲見世商店街ほか

● ネットワークミーティング「アート de 熱海!」

[実施日程] 2023年 4/20, 5/29, 7/14, 2024年 2/11
[会場] ナギサウラ、起雲閣

👤 関係者数：(延べ) 97人

巻上公一(音楽家)、西原尚(サウンドアート)、長峰麻貴(舞台美術家)、坂田明(サクソ奏者/ミジコ研究家)、伊藤千枝子(ダンサー/振付家)ほか出演アーティスト、NPO 法人 LAND FES、一般社団法人 Meets by Arts 等

愛おしいほど突飛で、難解でも友の心で、いままで以上の音楽祭に

巻上 公一さん



10 Cliff Edge Project うぶすなの水文学

団体名: Cliff Edge Project | 地域: 伊豆市



伊豆半島中央部伊豆市貴僧坊地区を中心に、この地域の地質、地形、水環境と水にまつわる信仰を、13名7組のアーティストが前年度より調査。2023年度は、そこから得た知見をもとにした造形作品やダンス、雅楽演奏の制作および展示発表を行った。調査から発表の過程において地域住民と協働することで、当該地域の歴史や地理に対する深い理解と文化振興を促した。

●『Cliff Edge Project うぶすなの水文学』

[実施日程] 2023年10/14～11/11

[会場] 貴僧坊公民館、貴僧坊水神社、民宿カブリコーン、平成森鮮組屯所、井上倉庫

👥 関係者数: (延べ) 80人

荒木佑介、伊藤允彦、BACCO、漆原夏樹、千賀基央、大久保美貴、小暮香帆ほか参加アーティスト、畑中章宏(民俗学者)、浅野友子(水文学者)ほかトークゲスト、伊豆市貴僧坊地区ほか協力団体・企業等

プロジェクトを通じて
伊豆半島に質の高い
芸術を提供したいです

住 康平さん



8 三島アートプロジェクトによる街中にぎわい創出事業

団体名: 三島アートプロジェクト実行委員会 | 地域: 三島市



三島市の商店街にある空き店舗をアート作品の展示会場とする「三島満願芸術祭」。この芸術祭をアート付テナントの内覧期間として位置付け、事業者と物件を引き合わせることで、芸術祭終了後に新しい店舗が営業を開始し、町の新陳代謝の促進に繋がることを期待するプロジェクト。

●『三島満願芸術祭 2023』

[実施日程] 2023年11/11～26

[会場] 三島市内商店街の空き店舗(旧鈴木商店、旧後藤ガラス、旧たまるや)ほか市内各所

👥 関係者数: (延べ) 120人

戸塚愛美(アーティストディレクター)、辻梨絵子(アーティスト)、古川諒子(画家)、山本篤(映像作家)、カニエ・ナハ(詩人)、関根愛(映像) 三島市観光協会、商店街関係者等

関係人口を増やすため、三島に
かない芸術祭を作ります!

山森 達也さん



11 心のままアートプロジェクト

団体名: NPO 法人こころのまま | 地域: 沼津市



障害特性など様々な理由で社会参加が難しい当事者やその家族が、地域とのつながりを持つきっかけとなること、また、地域における多様なつながりが強くなることをめざして、地元の高校生たちが主体的に運営するアートワークショップや展示会を開催するとともに、当事者・支援者向けの相談室を定期的実施した。

●アートワークショップ

[実施日程] 2023年6/17, 7/22, 8/2, 9/3

[会場] サンウェルぬまづ多目的ホール

●『相談室～困りごとをみんなで考える寄合所～』

[実施日程] 2023年8/4, 10/20, 12/1

[会場] cafe/day、サンウェルぬまづ

●『心のままアート展』(会期中に講演会開催)

[実施日程] 2023年11/23～12/3

[会場] サンウェルぬまづ

👥 関係者数: (延べ) 308人

中津川浩章(美術家/アートディレクター)、星野概念(精神科医/音楽家)、田川誠(画家)、深澤慎也(ディレクター)、マツナガマサエ(画家)、沼津西高等学校美術部、田方農業高等学校ライフデザイン科セラピーコース、協賛企業等

地域社会とのつながりを
強化していきます!

沼田 潤さん



9 つくって発見☆子どもアート de サステナブル!

～ハイザイ・ハザイのクリエイティブ・リデュースで子どもを育むプロジェクト～

団体名: Lab Qrio (ラボキュリオ) | 地域: 三島市



幼稚園、保育園や学校、企業等と連携し、廃材・端材を素材とした造形ワークショップを通じて、子ども主体のまちづくりや「子どもアート(ありのままの自分を表現すること)」の普及をめざすプロジェクト。2023年度は教育、福祉関係者を対象にした全3回の養成講座も実施した。

●子ども向け造形ワークショップ

[実施日程] 2023年7/29, 9/10, 11/4, 26, 12/4, 16

[会場] サントムーン柿田川、りんがふらんか(城ヶ崎文化資料館)、三島市立山田中学校、松崎町立松崎小学校、Via701 根継商店

●表現の原型を探る「子どもアート」養成講座

[実施日程] 2023年5/28, 6/11, 7/9

[会場] 三島市民生涯学習センター

👥 関係者数: (延べ) 52人

水野哲雄(京都芸術大学名誉教授)、サントムーン柿田川、知徳高等学校美術部、三島市立山田中学校美術部、根継商店ほか協力団体・企業等

子どもの価値とまちの
未来をアートに求めて!

榎本 亜子さん



14 HELLO YOSHIWARA ～吉原商店街に出会おう！～

団体名：吉原中央カルチャーセンター | 地域：富士市



富士市吉原商店街に眠る地域の魅力に、商店街店主と県外アーティストの視点を交えて“出会い直す”プロジェクト。2023年度は店主たちが企画する街歩きツアーとトークイベントを開催すると同時に、各店主とペアを組んだアーティストが商店街エリアに滞在、街歩きや店主との交流などから着想を得て作品を制作し、展示発表を行った。

● 店主による街歩きツアー&トークイベント

[実施日程] 2023年9/24, 10/1

[会場] 吉原商店街エリア及び各店舗（色男とチャイコ、紙内田ビル_for now、鯛屋旅館）

● 『HELLO YOSHIWARA ～吉原商店街に出会おう！～ EXHIBITION』

[実施日程] 2024年1/12～1/28

[会場] 吉原商店街エリア各所

👤 関係者数：(延べ) 42人

参加アーティスト（安藤智博、郡司淳史、Nozomilkyway、三木麻都）、吉原商店街各店舗の店主（色男、小林雅章、千文、西川卯一）、吉原商店街振興組合等

吉原商店街の面白い人たちを一番知ってる
団体になりたいです



瀧瀬 彩恵さん 田村 逸兵さん

15 竹林劇場プロジェクト「タテからヨコに広がる竹林劇場」

団体名：竹部（バンブ） | 地域：藤枝市



藤枝市谷稲葉の竹林を地域住民と共に整備し、イベント会場として開いていく「竹林劇場プロジェクト」（2022年度～）を展開し、今年度は竹楽器による演奏会や、竹遊具とマルシェのイベントを開催。竹林の活用に関心のある人々を触発し、地域の特性を踏まえた独自の竹林整備が“地域づくり”に派生していくモデルケースとなることを目指している。

● 竹林劇場プロジェクト「タテからヨコへ広がる」

[実施日程] 2023年10/28～29

[会場] 楽創倶楽部（竹林劇場）

👤 関係者数：(延べ) 205人

原大介（ギタリスト/ひかりセンター事務局代表）、竹林整備団体、マルシェ出店者、大工、竹細工職人、（一社）藤枝青年会議所、NPO法人里の楽校等

「竹林劇場」であなたの物語を
探しませんか？



松澤 圭子さん

12 YOKODO33

団体名：宗教法人大中寺 | 地域：沼津市



かつて駿河と伊豆をまたぎ、江戸時代より巡礼者の信仰を集めた「駿河伊豆両国横道三十三観音霊場」。忘れ去られようとしているこの巡礼道を実際に歩き、札所の観音菩薩はもとより道中の供養塔や石碑を絵に納めることにより、今を生きる個々に訴えかける巡礼アーカイブプロジェクト。巡礼に参加した美術家によるスケッチの展示会も開催。

● 「駿河伊豆両国横道三十三観音霊場」巡礼

[実施日程] 2023年5/26, 7/24, 8/22, 9/18, 25, 11/29

● 展示とトーク『YOKODO33 巡礼記 その一』

[実施日程] 2023年12/9～17

[会場] 大中寺本堂

👤 関係者数：(延べ) 32人

さとうなつみ（アーティスト）、平田博満（翻訳家/音楽家）、浄見史都香（デザイナー）等

変わらず着実に、巡礼の歩みを
進めていきたいと思えます



下山 光順さん

13 murono 尋常生学校

団体名：室野地農工商組合 mA-FaB | 地域：富士市



富士市室野地区の集落を舞台に、地域住民がゆっくり時間をかけてアーティストや専門家と関わることのできる学校的な空間を生み出し、活力ある地域の実現を目指すプロジェクト。今年度は「書」「お灸」「生け花」「3Dプリント」といった多彩なテーマで“寄り合い”の場を設け、ゲストと地域住民が相互に学び合う機会とした。

● murono 尋常生学校 -あたらしい寄り合い-

[実施日程] 2023年6/10～11, 9/17, 10/1, 11/18～19, 2024年1/27

[会場] 室野地区集落各所（団体代表自宅、室野公会堂）

👤 関係者数：(延べ) 29人

澤隆志（キュレーター）、華雪（書家）、林園子（作業療法士）、上野雄次（華道家）、澤辺由記子（デザイナー）、室野集落住民等

室野集落の悩みを振り下げ
転換に結び付ける！



谷津倉 功さん

18 浜松中心市街地を福祉(well-being)を軸に編みなおす ～多様な隣人と出会い、対話し、協働する機会と祭りの創出～

団体名：浜松ちまた会議 | 地域：浜松市



浜松中心市街地において、商業だけではなく新しい街との関わり方、遊び方、出会い方を提案し、文化を核とした新たなコミュニティづくりを進めるプロジェクト。誰もが参加できる「凸凹まつり」の開催や、街づくりに関わる団体や個人による意見交換の場「浜松ちまた会議」を開催した。

●『お祭りごっこ!! みんなでつくる凸凹まつり』
[実施日程] 2023年10/13～14
[会場] 新川モール(遠州鉄道「第一通り駅」高架下)

👥 関係者数: (延べ) 100人
(株)HACK、認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ、浜松市、新川モール、ちまた公民館有志、浜松盆部、NU-TRIA skatepark、浜松協働学舎、いもねこショップ、Green Cog、静岡県立浜松北高等学校等

2024年度はもっと大きな張り子(凸デコ)を地域の皆さんと一緒に作ります! 9月～10月に開催予定です!

久保田 瑛さん



16 藤枝ノ演劇祭3

団体名：藤枝宿代をつなぐ商店街づくり実行委員会 | 地域：藤枝市



藤枝の旧市街地を歩きながら、まちに眠る記憶を探る観劇ツアーを中心に、地元中高生のフリンジ企画、マルシェなどを楽しめる演劇祭。創作や上演等の機会を通して、藤枝宿の白子名店街を中心にまちの潜在的な資源を発掘。演劇を活用してまちの魅力を発信し、周辺地域の活性化に繋げることを目指し継続開催している。

●『藤枝ノ演劇祭3』
[実施日程] 2024年3/2～3
[会場] 蓮華寺池公園、旧東海道藤枝宿周辺、ひとことカフェ、大慶寺、藤枝市生涯学習センター、白子ノ劇場

👥 関係者数: (延べ) 111人
劇団ユニークポイント、アートひかり、たきいとやまだの会、清水宏、公募劇作家(一宮周平、廣川真奈美)、地元中高生、藤枝市地域おこし協力隊、白子名店街店主、藤枝市観光協会、藤枝商工会議所等

海外との交流も進めて
いきたいと思っています

山田 裕幸さん



19 浜名湖のその先へ～ Re-blooming～

団体名：SMS | 地域：湖西市



静岡県の最西端、白須賀の旧旅籠「白東館」やピオトープを拠点に、白須賀の歴史、四季折々の自然や暮らしなどを調査しながら、住民とアーティストが一緒につかっていくアートプロジェクト。作品展示やワークショップ、ピオトープの自然観察ツアーなどを含むイベントを開催し、アートの視点で地域内外に白須賀のアイデンティティを表出する機会とした。

●『浜名湖のその先へ～ Re-blooming～』
[実施日程] 2023年11/23, 25, 26
[会場] 白東館(旧吾妻屋)

👥 関係者数: (延べ) 47人
参加アーティスト(加藤ひろえ、TEN-TO 柏原崇之、銚井喬、北見美佳、Saraha)、NPO法人シラスカリフォルニア、おんやど白須賀、湖西市立白須賀小学校等

浜名湖のその先へ、
是非足を運んでください

滝本 幸夫さん



17 UNMANNED 無人駅の芸術祭/ 大井川を軸とした大井川流域アートプラットフォームづくり

団体名：NPO法人クロスメディアしまだ | 地域：島田市、川根本町



2018年にスタートしたこの地域芸術祭は、アーティストの滞在制作～発表の過程に地域住民が主体的に参画し、支援する環境をつくることを特徴としており、大井川流域におけるアートプラットフォームの形成を目指して開催を重ねている。2023年度は「東アジア文化都市 2023 静岡県」を契機とした韓国作家の参加もあり、さらにスケール感を増した内容となった。

●『UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川 2024』
[実施日程] 2024年2/10～3/17
[会場] 大井川鐵道の無人駅周辺、JR 島田駅周辺

👥 関係者数: (延べ) 356人
東弘一郎、LEE ISOO、Instant Coffee、木村健世、さとうりさ、ヒデミニシダ、森繁哉ほか参加アーティスト19組、島田市、川根本町、(株)大井川鐵道、抜里エコポリス、集落住民、サポーター、県外大学生等

年間を通じて作家が
滞在制作できる
地域全体での環境づくり

大石 歩真さん、兒玉 絵美さん





地域 はじまり 支援

START-UP
CATEGORY

プロジェクトデータ

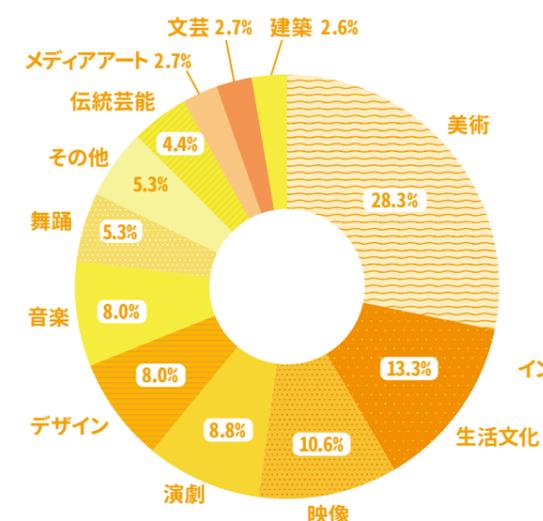
PROJECT DATA

2023年度「文化芸術による地域振興プログラム」により事業を実施したのはどんな団体？

①各団体が活動の軸に据えている文化芸術分野 ②活動を通して協働する文化芸術以外の分野 ③2023年度助成事業の規模（総事業費）の3つの観点から、全26団体（地域クリエイティブ支援19団体、地域はじまり支援7団体）の傾向を分析してみました。

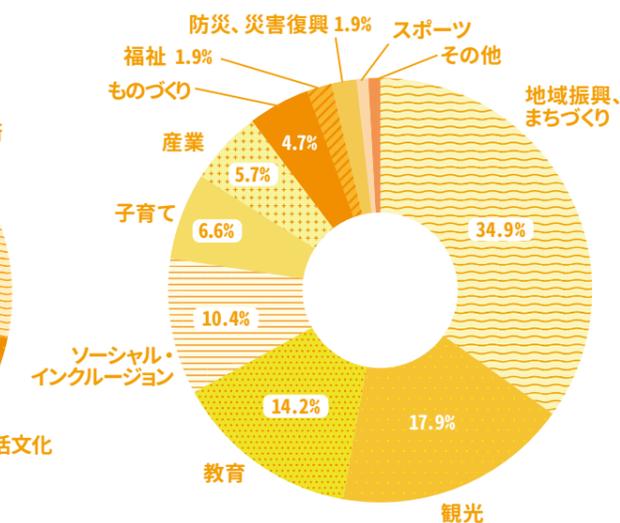
1

活動の軸としている文化芸術分野



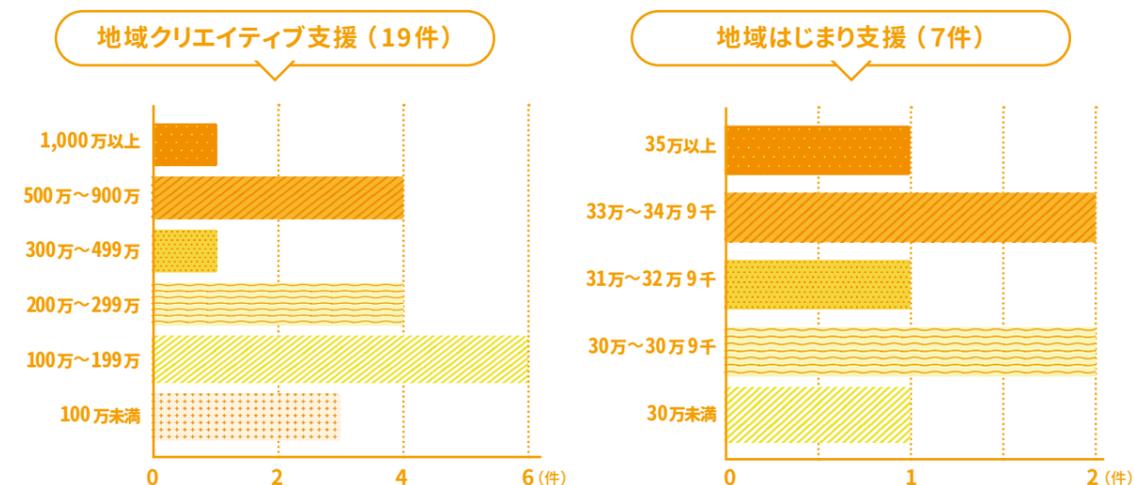
2

文化芸術以外の協働分野



3

2023年度の事業規模（総事業費）



21 暮らしの根っこを考えるワークショップ ～普段の生活から河津町の“今”を見つめる～

団体名: Working Space Bagatelle | 地域: 河津町



河津町民一人ひとりが周囲や自身を取り巻く環境を捉え直すためのワークショッププログラム。アーティストがファシリテーターを担うことで、参加者が自分の考えや価値観に新たな気づきを得て、心置きなく自己表現できるコミュニティをつくることを目指して実施した。

● 河津町の生活（自然、食）をテーマとしたワークショップ

[実施日程] 2023年11/4, 17
[会場] Working Space Bagatelle (河津バガテル公園内)、河津町保健福祉センター

👥 関係者数: (延べ) 12人
高野ゆらこ (俳優)、井原宏蔭 (彫刻家)、河村愛子 (編集者)、河津町役場、河津町観光協会等

今回の事業を活動の「根っこ」として生かしていきたいです!



和田 佳菜子さん

地域はじまり支援

対象 : アートプロジェクトの実施に向けた試行的取り組み

助成金額上限: 30万円

助成率 : 助成算定経費※の10/10以内 ※助成対象事業の実施に要する経費から補助金、負担金、その他の収入(自己資金を除く)を控除した額のうち助成対象経費に該当する経費

○ 実施プログラム

団体名: ○○○○○○○○○○ | 地域: ○市(町)



● 『○○○○○○○○○』
【実施日程】○年○/○-○/○
【会場】○○○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○

👥 関係者数 / (延べ) ○人
○○○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○、○○○○○

団体代表者コメント○○○○○
○○○○○

○○○さん

2023年度事業の中で実施した主なイベント等の概要

イベント来場者数ではなく、団体構成員はじめ事業の企画運営に関わった人数を示す

22 アートや文化のある日常への“きてん”をつくるプロジェクト

団体名: きてんきち | 地域: 沼津市



沼津市民を対象に、日常レベルでアートや文化に触れる機会を創出し、人々の出会いや文化芸術に対する能動性を育むことで、新たなコミュニティの形成を目指すプロジェクト。「アトリエ訪問 & 交流会」「まちなかアートMAP」の制作やツアーを通して、市民とアーティストとの接点を生み出し、地域に眠る文化的価値の可視化を試みた。

● 『アーティストに会いにいこう』

[実施日程] 2023年8/23, 10/1, 2024年1/21
[会場] 各アーティストのアトリエ

● 『まちなかアート巡りツアー』

[実施日程] 2024年1/28
[会場] 沼津駅南口まちなかエリア

👥 関係者数: (延べ) 29人
杉澤佑輔 (ケーターアーティスト)、西野壮平 (写真家)、小山嶺子 (フードアーティスト)、OTHERS (ショップ兼ギャラリー)、RIVER BOOKS (書店兼ギャラリー)、沼津市庄司美術館、石渡三夫 (彫刻家)等

繋がりが生まれ個々の多様な表現がひらいていく “きてん”をつくります



菊地 悠子さん

20 TOWA 紫陽花 ～あじさい ART プロジェクト～

団体名: TOWA 紫陽花プロジェクト実行委員会 | 地域: 下田市



下田市のあじさい公園で開催される『あじさい祭』の剪定後に処分される紫陽花をドライフラワーにして活用し、新たなまちづくりに挑むアートプロジェクト。地域資源の再発見と、地域課題を活用した地域活性化を目指し、空き店舗や商店街を会場に、紫陽花にまつわるワークショップや展示等を行った。

● 『紫陽花部屋』でのアートイベント (ワークショップ、こども図書館、福祉作業所の作品展示販売など)

[実施日程] 2023年6/1～7/31
[会場] 下田市街地の空き店舗に紫陽花のドライフラワーを配し「紫陽花部屋」として活用

👥 関係者数: (延べ) 49人
山田勤 (和菓子職人)、土屋尊司 (イラストレーター)、鈴木颯人 (ART.flower shop) ほか地域のアーティスト、会場提供者、教育委員会、花協議会、すぎのこ作業所、有機農家等

地域住民と地域資源・地域課題のアップサイクルを目指します



青木 真さん

25 つくって・みつめて・みつけよう ～子どもたちの手からはじまる～

団体名：NPO 法人ヒト・マチ・プロジェクト

地域：静岡市



● こどもアートスタジオ ワークショップ

[実施日程] 2023年5/21, 6/4, 11

● 「SOYハウスアートフェスティバル」での作品展示

[実施日程] 2023年6/18～30

[会場] SOYハウス

👤 関係者数：(延べ) 35人

堀園実(彫刻家)、子育て世代のサポートスタッフ、参加した子どもの保護者等

明治42年築の古民家を改修した「SOYハウス」を拠点に、ワークショップシリーズ「こどもアートスタジオ」を開催。彫刻家などが監修をつとめ、作品づくりを通して子どもたちの創造力を育むとともに、作品を置くことで空間が変化する面白さを味わうワークショップを実施。大人も子どもも日常に潜在する価値に気づくことのできる機会とした。

アートの発信拠点として
地域に根付いていきます



山下ともちさん

23 あるもんで演劇 演劇×オルタナティブ教育×オクシズ

団体名：NPO 法人静岡あたらしい学校

地域：静岡市



● あるもんで演劇 ワークショップ(全9回)

[実施日程] 2023年5月～2024年2月

● あるもんで演劇 発表会

[実施日程] 2023年10/1

[会場] 静岡あたらしい学校 校舎

👤 関係者数：(延べ) 353人

宮城嶋遥加(SPAC俳優)、入江恭平(SPAC制作部)、佐藤里瀬(衣装デザイナー)、中島法晃(美術家)、足達優人(新聞記者)、牛妻地区・平地区住民、地域の大家等

オクシズの玄関口・牛妻地域にあるオルタナティブスクールを拠点に、地域に“あるもん”(もともと在る人材や資源)を活かしながら、関わる人の誰もが主役になれる演劇づくりを行うプロジェクト。俳優などがファシリテーターとなって子どもたちの主体性を軸にワークショップを重ね、作品の創作～地域に向けた発表会～振り返りまで丁寧に実施した。

演劇を媒介として学校と地域が
ゆるやかに繋がりますように!



酒井田 愛香さん

26 デモクラティックスクールび～だ&つくる人々

団体名：つくるぞうのへや

地域：浜松市



● 陶芸家、アーティスト、料理家による
スクールでの滞在制作

[実施日程] 2023年4月～2024年1月

● 『び～だフェスタ』

[実施日程] 2023年9/30

[会場] デモクラティックスクールび～だ

👤 関係者数：(延べ) 24人

夏目とも子(現代美術家)、村松優紀(陶芸作家)、大村智子(料理家)、び～だフェスタ運営協力者、学生ボランティアスタッフ、び～だに通う子どもの保護者等

浜松市中区のフリースクール「デモクラティックスクールび～だ」に通う子どもたちと、陶芸やアート、料理などを「つくる人」との出会いを創出するプロジェクト。関わる周囲の大人が子どもたちに様々な成長の種を蒔き、それを耕していくという共通意識のもと取組みを進めた。さらにスクールでのフェスタを通し、地域住民との相互理解を図った。

次年度は繋がりや広がりを大切に
活動出来たらと思います



箕 有子さん

24 見えてるようで見えていない“まち”に気づく・見つけるアートプロジェクト

団体名：“まち”と“好き”であそぶ人たち

地域：静岡市



● アーティストワークショップ

[実施日程] 2023年7/31, 8/19, 10/14

[会場] 蒲原地区まちなかエリア(ヤマロクソース、駄菓子ツバメ)

● おしゃべり作品展示会 in 町屋

[実施日程] 2023年11/4, 5, 11, 12, 18, 19

[会場] 蒲原3丁目の町屋(空き家)

● まちすき報告会(アーカイブ展)

[実施日程] 2024年1/20

[会場] ヤマロクソース

👤 関係者数：(延べ) 23人

斎藤遥加(イラスト・絵画制作)、NPO 法人旧五十嵐邸を考える会、蒲原地区連合自治会、一般社団法人しずおか民生活用推進協会等

一人ひとりの「好き」を軸に、遠くなってしまった「まち」と「人」の距離を近づけるプロジェクト。蒲原地区の住民を対象としたアーティストワークショップ、フィールドワーク、空き家での作品展示等を通して、普段は当たり前すぎて見えていないまちの風景や事象に人々が気づき、感じ、表現することで、まちに触れる感覚を取り戻してもらおう試み。

蒲原の暮らしの中
おもしろいものに気付く
きっかけを増やしたい



大澤コーセイさん

伴走 支援

「文化芸術による地域振興プログラム」では、5人いるアーティストが助成を受ける各団体の担当となり、団体に寄り添う伴走支援を行っています。事業目的と事業内容の関連を整理したり、将来的な展望を描くためのアイデアを提供したり、費用の分配に関する助言をしたり、人材や他の補助金の紹介をしたりするなどしていますが、団体の状況に応じた臨機応変なやりとりであるため、定型がなく、どのような役割を担っているか見えにくいかもしれません。そこで、5名の専門スタッフによる座談会を通じて、伴走支援の中心や考えを紹介すると共に、それぞれの経験がどのように伴走支援に活かしているか聞きました。

それぞれの伴走支援

鈴木 「伴走支援」と一言で言っても実践する人によって違いがあります。どのように伴走支援を行っているか教えてくださる。

櫛野 地域との関わりをつくる提案をしたり、次につながるような糸口を示したりと、羅針盤のような役割を担っていると思っています。活動が長い団体には、変化する課題を整理した上で、別の補助金情報をシェアしたこともあります。また、少し俯瞰した観点から、活動の特殊さや先進性について言葉や文章で伝え、事業の社会的価値を見出すお手伝いをすることもあります。

北本 アートが好きだったり、期待を寄せていたりするから団体のみなさんはアートプロジェクトを実施しているわけですが、一方で目的と手段の相関関係がぼんやりしてしまっていることもあります。そんな時は、事業の有効性に手応えを持ってもらえるよう目的に照らし合わせてロジックを整理したり、アートならではの手法や考え方を提案したりすることで、アートの有用性により前向きになってもらえるような対話をします。

立石 当事者だからこそ、見えにくくなってしまいうことに對して、客観的立場から言葉にして背中を押すことを心掛けています。活動を言語化することは、周知にもなり、仲間集めにもなりえます。そのように、ひとつの物事の多面性を団体に伝えることも支援の一環だと思っています。

若菜 団体がやりたいことと、地域の結びつきが曖昧になっていないかという点に気を配っています。また、後方支援として、団体だけでは最初の一步が出にくいところ、こちらがアポをとり、一緒に行ってつなぐということもしてきました。

鈴木 基本はやりたいことを気持ちよくやらせてもらうのがいいと思っています。地域に根付いて活動している団体が多い中で、活動の拡大を見据え、それまではなかった他分野や他団体との接続点を発見するために、事業内容や目的の整理をすることに軸を置いています。

北本 その点で言うと、長く続く活動ほどオブザーバー的な位置づけになるように感じます。すでに様々な取組み実績がある場合、地域内のネットワークも充実していることが多いので、実践的な助言の求めに對しても、多くを言わないようにすることもあります。それが結果的に、オブザーバーのような立ち位置になったりします。

鈴木 多くを言わないというのは？

北本 解決の方法を示しすぎないということ。自ら解決策を見つける経験の積み重ねは、別の事業にも対応する力となることもあり、団体の力にしてもらう意図を持っていません。過去にこのようなやりとりをした団体では、彼らがテーマにしていることが、私自身の経験と親和性があったので、見通しが立てやすく、どこまで伝えるかの判断もしやすかったですね。

鈴木 例えば、メンバーが多いケースだと意見が多く出るという利点もありますが、一方で話が散漫になってしまいうこともありませぬ。そこに区切りをつくって、話や方向性の整理を促す存在となり、いい意味でアンカーとして作用するということがあるかもしれません。

立石 まちづくりに関わる団体がアートプロジェクトを始めた初期の頃、計画や予算を組み立てる段階から細かく相談にのったことがあります。最近、彼らから「そのことが土台になり、今につながっている」と振り返ってもらいました。アートではない他分野の担い手にも、アートプロジェクト実施のノウハウを受け渡せたことが良かったと思っています。

また、別の団体では、団体とアーティストの間に生じたギャップを中和する役割を担ったこともありましたが、見方によっては伴走支援の枠を越えている気もしますが、アーティストとの協働に慣れた団体がそれほど多くないという、静岡県の実態に合わせた結果だと思っています。

若菜 私のところでも似たケースがあったのでよくわかります。そこでは、団体に対して、相手方との距離感を調整するような助言をしました。また、団体とアーティスト間だけでなく、代表とメンバーがよく話を



専門スタッフ



榎野 展正

チーフプログラム・ディレクター

2000年より福祉施設で働きながら、広島県福山市にある鞆の津ミュージアムでキュレーターを担当。2016年、アウトサイダー・アート専門スペース「クシノテラス」開設のため独立。総務省主催「令和3年度ふるさとづくり大賞」にて総務大臣賞受賞。



北本 麻理

プログラム・ディレクター

アートキャンプ白州でダンスと出会い、京都造形芸術大学舞台芸術研究センター、舞鶴市文化事業団、ビッグ・アイ、NPO法人JCDN等の企画運営を通して、舞台芸術と社会の循環と関係性を考察。『三陸国際芸術祭(2015)』プログラム・ディレクター。



鈴木 一郎太

プログラム・ディレクター

ロンドンでアーティストとして活動後、NPO法人クリエイティブサポートレッツで障害と社会をつなぐ事業に携わる。2013年の独立後は、主体者の思いから展望を見出す企画づくりを軸に、様々な分野の事業に関わる。Central St. Martin's College of Art and Design MA Fine Art 修了。



立石 沙織

プログラム・コーディネーター

静岡文化芸術大学にてアートマネジメントを専攻後、ギャラリーやNPO等で、アーティストの支援やアートによるまちづくりに従事。展覧会やアートプロジェクト、アーティスト・イン・レジデンスの企画運営、広報を担当した。



若菜 ひとみ

アシスタント・コーディネーター

自治体職員として若手芸術家の支援やミュージアムの企画運営など文化振興業務に従事。フラッシュ・モブ・ハプニング主宰。コミュニティラジオの映画番組の立ち上げ、番組運営に携わる。2011年より社会人劇団の制作を担当。

することを促したこともあります。計画や振り返りの際に団体内で意見を共有することが、事業のより良い更新につながる実感してもらえようと思いました。

過去の経験と伴走支援

鈴木 情報の整理、教えるというより気付きを促す、間に立つ、活動の地域内での位置づけを見出す、展望を示すなど、ケースによって使い分けはありますが、これらは伴走支援の内容として全員に共通していると思います。一方で専門スタッフのキャリアはバラつきがありますよね。これまでのどんな経験が、伴走支援に生かされているか教えてください。

榎野 長くいた福祉現場で言語以外のコミュニケーションを通して得た観察力が活用できていると思っているのと、いろいろなものを組合せて企画にまとめるキュレーションの力が役立っていると思っています。

立石 以前は、アートNPOの職員として助成を受ける側で仕事していました。まちづくりの現場だったので、アーティスト、行政、企業、地域住民など、いろんなステークホルダーの間で価値を共有することに取り組んでいた経験を、今度は活動を応援する側として活かしたいと思っています。

助成制度を有益に使いこなしてもらいたいという思いから、助成制度の運営側にどういう意図があって、どのようなロジックやマナーがあるかを、団体の目線に立って説明するよう心掛けています。また反対に、団体のビジョンを助成制度にどう接続できるか、ということに常に意識しています。

鈴木 何かできていたからではなく、苦労した経験があるから、団体側の立場になれるということですね。

北本 アートプロジェクトの現場には、私がこれまで関わってきたダンス作品のクリエイションとの類似性を感じます。振付家とダンサーが主になって作品づくりが行われますが、途中段階を見せるワーク・イン・プログレスを間に挟み、別視

点からの意見を取込んだりすることがあります。プロジェクトも作品も、一人でつくるものばかりではないですし、みんなが取組むものももっと増えたらいいなと思っています。

鈴木 俯瞰的に事業を見渡した上で、足りていない部分を見出して、そこに伴走者としての自分の役割を当てはめていくということですかね。舞台制作だと、広報やドラマトルクのように、チームの中で客観性を担保する役割もありますよね。先程のオブザーバー的な役割を担ったケースでは、客観的視点を補う必要性を見つけて、そこに自分を位置付けたということでしょうか。

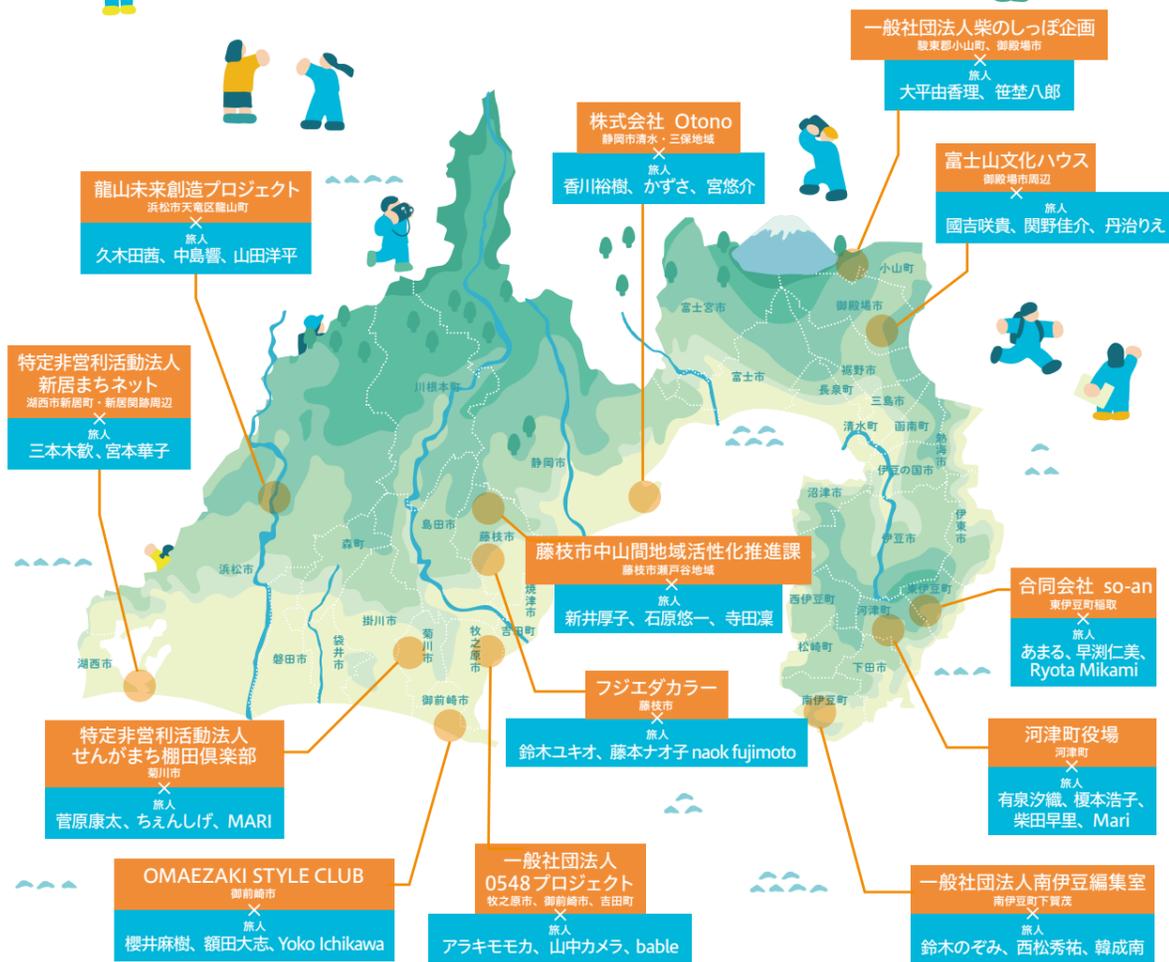
若菜 私は元々行政にいたので、法令などを読み慣れていて、団体の制度の相性について感覚的にわかります。また直前に関わっていた仕事では、ひたすら調整を繰り返す日々だったので、相手の背景をつかみ、着地点を見出す力が鍛えられました。制度運用と事業運営で若干の違いはありますが、相手側の目的や守りたいこと、そのロジックを読み解くという点は共通していて、その経験は伴走支援にも役立っています。

鈴木 そこはとても共感します。人であれ、制度や事業であれ、一見関係なさそうに見える物事の中に共通項を見つけてつなぐ時には、情報を得て、理解し、接合点を想像するということが不可欠だと思います。自分のことを加えて言えば、情報を得る時に、言葉にされていなくても、考えや蓄積はあるということを前提に置いて、人や活動を見るようにしています。それらは、本人にとってはあたりまえすぎて、表されていないだけで、むしろ一番大事にしたい部分だったりします。個人的には、分野や文脈が違っていると見られている物事の中に横断する共通項を見出すのは、アーツカウンシルの専門性のひとつだ

と思っています。文化芸術を地域振興につなげるというアーツカウンシルがおかの助成制度もそこに由来していると言えますし、伴走支援も、地域の多様な方々と連携したアートプロジェクトが展開され、団体のみなさんの活動が進展する手助けになれたらと思います。

micro ART work-ACTION 2023

マイクロ・アート・ワーケーション



マイクロ・アート・ワーケーション (MAW)

MICRO ART WORK-ACTION (MAW)

マイクロ・アート・ワーケーション (MAW) は、静岡県内各地で活動する団体が「ホスト」になり、全国から公募で集まったアーティスト等のクリエイティブ人材を「旅人」として受け入れ、地域と同人材の出会いをつくる事業。昨今、クリエイティブ人材が関わる先進事例は様々な分野で起こっているが、実際に文化以外の分野において、目的や課題とクリエイティブ人材が結び付いた企画の立ち上げにはハードルがある。本事業は、地域とクリエイティブ人材がお互いを知る機会となり、将来的なアートプロジェクトの発生につながることを期待している。

<実施実績>

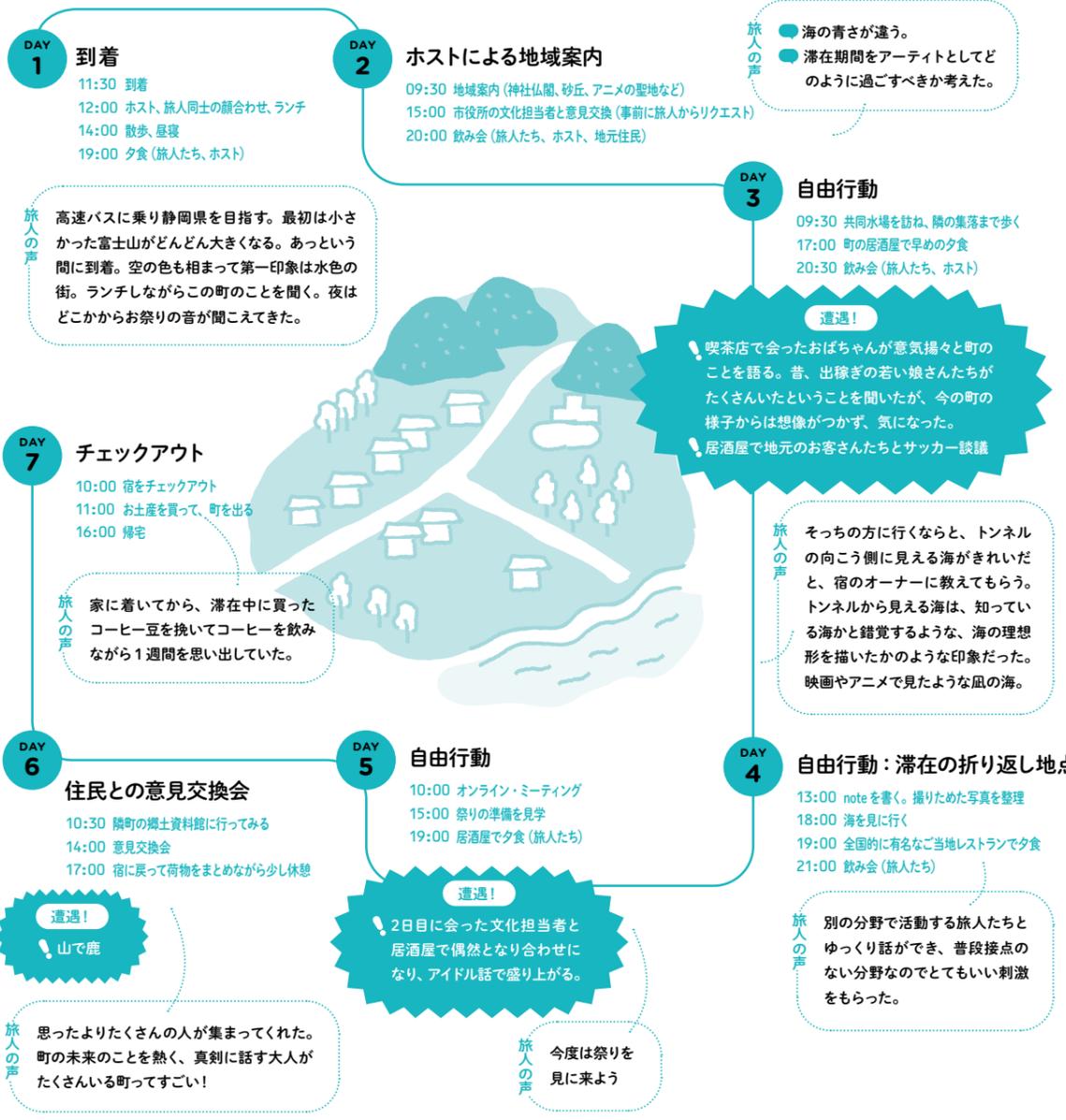
ホスト、旅人ともに公募をし、両者のマッチングを行った結果、県内全域で13団体のホストと、17都府県から37名の旅人の参加が決定した。2023年9月から11月の間、6泊7日の日程でホストの活動エリアに旅人が滞在した。

藤枝では、「住民との意見交換会」をピクニックのように外で実施。劇団の代表や市の職員らが集まった。ホストが用意した名物のまんじゅうを食べながら青空の下で話をしていると、大祭りの屋台が目の前を通過し威勢のいい掛け声が飛び引き回しには、大人から子どもまで参加し、予行演習とは思えないほど迫力があつた。旅人にとって、3年毎に開催されるこの祭りを「リアルでは体験したい、また戻ってきたい！」と強く思った出来事だった。

ドキュメンタリー映像作家の旅人は、この町で最年長のおばあちゃんの誕生会に立ち会った。お酒が大好きなおばあちゃんのために、お孫さんとはびきりの麦焼酎をプレゼント。乾杯のシーンを撮影させてもらうことができた。その数日後、おばあちゃんが亡くなったと報せを受ける。命には終わりがあがる。そんな当たり前のことをこんなに強く実感したのは初めてだったかもしれない。この町の今を生きる目的の前の人のために映像を作りたいと思った。

滞在サンプル

旅人がどのように滞在期間を過ごしていたか、実際の滞在と創作を織り交ぜ、サンプルとして紹介します。



考察と展望

マイクロ・アート・ワーケーションが始まって3年が経過し、これまでに延べ136人の「旅人」が県内41エリアを旅した。本事業では、あえてその土地を実際に訪れてもらい有機的なつながりを作っている。オンラインでのコミュニケーションが容易くなった時代に逆行しているようにも見えるが、ポストコロナ時代の今だからこそ、地域の在り方を見つめ直す好機であると言えるだろう。2024年までに本事業をきっかけとして8本のアートプロジェクトが始動した。クリエイティブ人材という未知数な存在と地域の掛け合わせは、予測不可能な現代においてイノベティブな可能性を秘めている。アートプロジェクトという形ではないものも含め、出会いがもたらした波紋の広がりを今後も注視していきたい。

若菜ひとみ

MAW note

旅人には作品制作などの成果物は求めず、情報発信サービス「note」での滞在日記とまとめの発信をお願いした。記事は毎日翌日中の更新としたが、字数制限なし、写真1枚でも可とした。まとめについては、1,000字以上の執筆を条件にすることで、クリエイティブ人材ならではの言葉で地域や滞在体験を表してもらった。

noteはこちらから



または「マイクロ・アート・ワーケーション 2023 note」で検索

宮 悠介
「みずいろの街 (1日目)」より抜粋

旅人3人で法被を着て記念撮影 (真ん中が宮さん)

新井 厚子
「『お茶畑と山の間の逗留日記』まとめ編」より抜粋

お茶を出し切ったあとの茶葉を食べる体験も

丹治 りえ
「滞在レポート(まとめ)」より抜粋

MAWの滞在中に、展覧会に参加。トークイベントの様子 (左から2番目が丹治さん)

額田 大志
「芸術のある生活」滞在レポートまとめより抜粋

ホストによる地域案内でビーチ清掃を体験 (左が額田さん)

MAW 小話 3

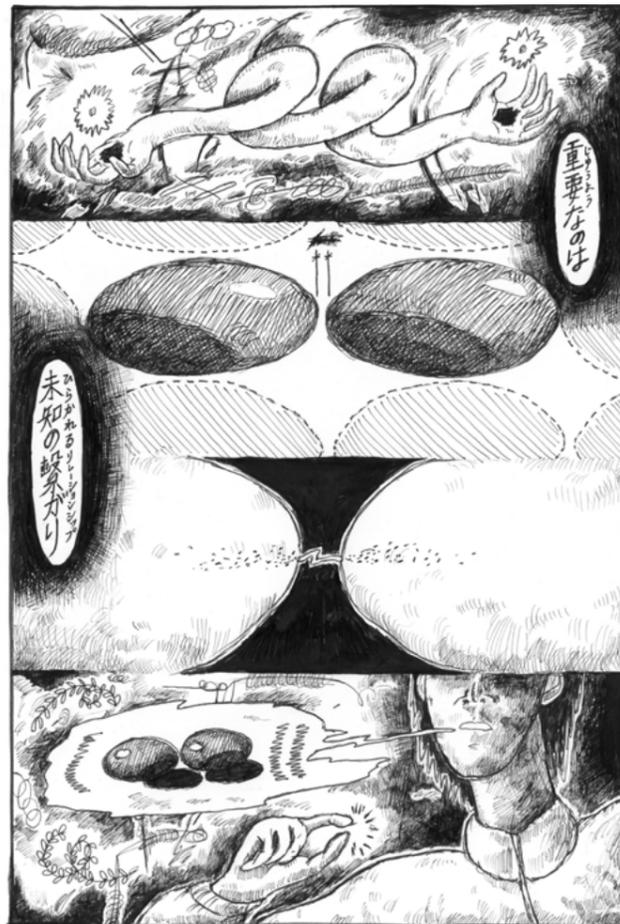
湖西市のホスト団体の一人は、この町では小さい路地を「小路(ショウナ)」と呼び、そこに土地を守る神様がいて、かつて祖母から教わっていた。今や完全に忘れ、思い出すこともなくなっていたが、旅人は独自に「小路」を調べ上げ、写真に撮ったり、スケッチに描いたりしていた。そのスケッチを見て、「小路」を走り回っていた子どもの頃の記憶を鮮明に思い出した。観光資源に手詰まり感があつたが、こういってたことも来訪者に教えてあげられると気がついた。

「MAWってなんだ？」

2021年度、アーツカウンシルしずおかの本格稼働からほどなくして産声をあげた「マイクロ・アート・ワーケーション」、通称「MAW」。地域とアーティストとの交流を促進する事業と説明してはきたけれど、それってつまりどういうことなのか。「MAW」とその名を口にしてみるといい具合に力が抜けるこの事業の正体について、ふたりの旅人の視点から考えを巡らせてみたいと思います。

旅人 ちえんしげ

2023年清秋、稲穂の実る季節に間に合い、私はマイクロ・アート・ワーケーションの一員として菊川・せんがまちに滞在させて頂いた。短期のアーティストレジデンスと言うべきか、或いはクリエイター派遣事業、地域発信プロジェクトに参加しているのか、自分の立場を如何に定義して説明するかしばらく困惑する中、ふと折口信夫のまればと（稀人・客人）を思い出した。まればとはやってきて帰る。旅人も然り。町に情報を持ち込んでまた新しい情報を持ち去る。互いは一週間で見聞きした莫大なイメージをきつかけに、今まで気付いて来なかったことがまるで開眼されたようにつきり見えるようになった。そして、見えなかった自分にはもう二度と戻れない。新たな「眼力」を、ゲット。



ちえんしげ

美術家。1993年台湾生まれ。東京藝術大学美術研究科博士課程在籍中。絵画・マンガ・言語を用いて視覚上のおトク感や多言語社会などを主軸に制作。近年の個展に「玄関を Dumpling するには漂流なり」TOKAS、東京（2023）、「郊外住みの、一石二鳥」AP どのう、茨城（2023）など。

画像提供 Tokyo Arts and Space

旅人 早瀬仁美

ただひたすら綺麗な景色だった。私は稲取の人々の心の中にある「場所」を探し歩いた。あるお婆さんは昔平泳ぎで一番になった湾の横を歩く。タクシー運転手は道中いつもセンブリの花を探している。無数の場所が存在し、何度も景色を眺めた。そんな折、宿では毎朝近所の人々の声が聞こえて、声はいつの間にか私にとっての場所になった。一つ一つが、全部だった。

この旅は作品を作る必要がない。それは美術と言う必要もないということ。この町に形ある美術を持ち込むのではなく、海や人や草や強い風も別々ではなく、自分と一体で、自分が自分であるだけでいい、そう思わせてくれた。何もせずに、見つめるだけでいい。それは普通だと思う事が全ての人にとって共通だとは限らないと認識し合う作業だったのかもしれない。普通って本当は自分のとても個人的なこと。

もしも、道端で子供たちが一列にしゃがんで地面をじっと見ていたら。多くの人はアリの行列を想像して通り過ぎるかな。でも本当は、世界を紐解く数式を解いているのかも。作品を作る、その前のこと。稲取では今日も船が出る。漁をしに行くとは限らない。それを確かめるのが私たちで。旅は、終わらない。



早瀬仁美

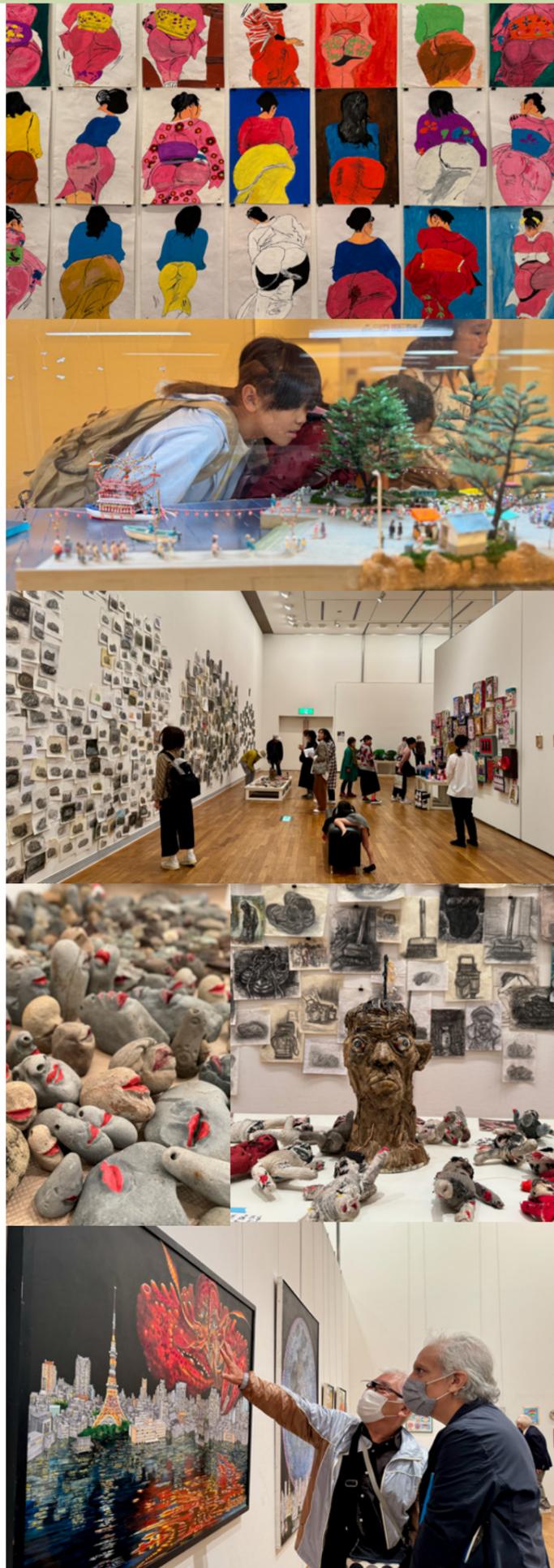
「今こうしている間に起きていること」に焦点を当てて作品制作、活動を行う。生活の中で起こる些細な人やモノの関係性をテーマに扱う。オルタナティブスペース gallery 三三 → empty 運営。



超老芸術展

アーツカウンシルしずおかでは、高齢になってもなお、独自の創作を続ける高齢者による芸術表現を「超老芸術」と名づけ、組織設立当初より取材を重ね紹介してきた。以来、NHK全国放送でも取り上げられるなど年々注目を集め、2023年10月、「東アジア文化都市2023 静岡県専門協働プログラム」の一環として初の大規模展覧会を開催した。

本展では、全国各地から集めた22組の「超老芸術家」による1,500点を超える作品を一挙に公開し、6日間で1,767人が来場した。



超老芸術展
～遅咲きのトップランナー大暴走!～
2023年10月3日～8日



アートによる 空き家活用 fresh air

空き家などの遊休施設に着目し、クリエイティブ人材の視点からその活用法を探るモデルプログラムを実施した。公募で集まった地域団体とクリエイティブ人材が連携し、空き家等を舞台にしたアートプロジェクトや活用法を模索するとともに、クリエイティブ人材が地域にとって「新鮮な空気」となり、地域の創造性が触発されることを目指した。

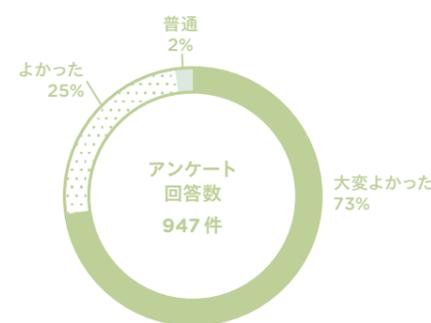
「fresh air」は、これまで閉ざされていた扉を開き、風をとおり、新しい空気をいれる、空気を入れ替えることを意図して名付けたものである。

「超老芸術展」を振り返る

初の大規模開催となった本展では、全国各地から集めた22組の独学の高齢芸術家による作品1,500点以上を展示。これまで取材発掘してきた県内の高齢芸術家だけでなく、全国各地で人知れず創作を続ける高齢者の芸術表現を世界に向けて発信した。

60代以上の来館者が客層の半数以上を占め、アンケート回答者の半数以上が「何か表現活動をしてみようと思った」と答えるなど、鑑賞者の表現活動を触発する機会となっただけでなく、静岡県内の複数名の出展者が自主的に連日在館を続け、自作の解説を行うなど、出展者のQOLの向上にも資することができたのではないかと感じている。

会期中は、多くのメディアで紹介されたことで、本展を機にそれまで注目されることがなかった県内作家に光が当たる契機となったようだ。来館者アンケート（アンケート回答数：947件）では「大変よかった」73%、「よかった」25%、「普通」2%と、否定的な意見はなく、次回開催を望む声が28件寄せられるなど、本展が好評を得たことで、2024年度は長野県にある北アルプス展望美術館（池田町立美術館）で巡回展を開催することになった。



会期終了後にはWebマガジン「artscape」で美術ジャーナリスト・村田真氏による展覧会レビューが公開され、『質より物量』『考える前に手を動かす』精神は、凡庸な日々を送るわれわれに揺さぶりをかける」と評されただけでなく、国内外のアートシーンを伝えるWebメディア「Tokyo Art Beat」の「2023年ベスト展覧会」に本展が選ばれるなど、美術分野においても高い評価を得ることができた。

2023年12月からはメタバース上で超老芸術展がオープン。短い会期のため、残念ながら展覧会に足を運ぶことができなかった人々をはじめ、多くの人たちがメタバース上の展示空間を楽しみ、「超老芸術」の取組を世界に周知することができた。

櫛野展正

メディア掲載とその後の展開



～遅咲きのトップランナー大暴走！～ 超老芸術展

日程：2023年10月3日(火)～10月8日(日)
会場：グランシップ6階 展示ギャラリー
入場料：無料
主催：アーツカウンシルしずおか
共催：東アジア文化都市2023実行委員会

同時開催

創造トークス・超老芸術は「文化」だ！ ～超高齢化社会における文化芸術の可能性～

日程：2023年10月8日(日)
会場：グランシップ2階 映像ホール
入場料：無料 定員：先着80名
※「創造トークス」の詳細はp53参照

一般社団法人モリマチリノベーション

遠藤七海 [ダンサー/アーティスト、制作者、料理人]

商店街の中に位置する元レコード店で、コミュニティスペースとゲストハウスをスタートさせた複合施設「pieces」。建物内の手つかずの部屋を対象として、ダンサーでアーティストの遠藤氏が地域住民との出会いや交流を通じて、食やダンスのイベントを企画。同施設が地域住民により広く認知され、新たな人の流れを生むことを目指した。



OKUSURUGABOARD

吉野祥太郎 [彫刻家・アーティスト]

50年以上の長期にわたり放置された空き家を取り上げ、アーティストの吉野氏と共に周辺の草刈りやフィールドワークを行いながら、富士山と駿河湾が一望できる立地を活かしたアーティスト・イン・レジデンスについて意見を交わした。吉野氏はこの地域の多面的な魅力に惹かれ、レポートと映像にまとめた。



龍山未来創造プロジェクト

スズキサチコ [美術家]

山間地の過疎地域で新たに空き家活用事業を構想する団体と、県西部を拠点に活動する美術家のスズキ氏がマッチング。スズキ氏は、周辺住民との交流を重ね、丁寧なヒアリングを行った。地域の人と人の距離が近いことに着目し、アーティストだけでなく、地域住民も気軽に集まることのできる場「龍山アートラボ(仮)」を提案した。



A プログラム 周智郡森町森地区

本活動を住民に周知するための「いなとりアート新聞」を発行



2024年

1月 4回目の滞在

「イナトリ・アート・フェス」準備

2月 5回目の滞在

地域住民を対象とした「イナトリ・アート・フェス」バスツアー
「イナトリ・アート・フェス」トークイベント

初開催にも関わらず、「イナトリ・アート・フェス」を目的に町内外から多くの来場者が訪れる。「アートプロジェクトの良さは、やって終わりではなく、作品というアウトプットが生まれること、そしてそれをみんなで共有できること」と団体代表の荒武優希氏。



3月

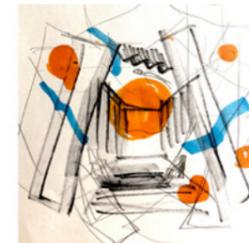
東伊豆町立図書館にて、写真ワークショップの巡回展開催

「イナトリ・アート・フェス」を見た図書館職員の希望で、思いがけず図書館での巡回展が実現。



B プログラム 奥駿河(沼津市、奥駿河湾沿岸部、静岡内浦、西浦)

B プログラム 浜松市天竜区龍山町



fresh air

クリエイティブ人材による 空き家等活用モデルプログラム (実証実験事業)

空き家は、建物の状態や所有者との関係性など、物件ごとに異なる状況がある。それらを踏まえ、モデルプログラムは、「A アートプロジェクトの試行を通した空き家等の活用」(滞在日数延べ 30日)と「B クリエイティブ人材による空き家等の活用を目指した企画提案」(滞在日数延べ 10日)の2パターンに分け実施した。

A Bともに、空き家の所有者と連携している地域団体を先行して公募し、実施地域や対象物件を明確にした上で、クリエイティブ人材を全国から募り、ArtSが団体とクリエイティブ人材のマッチングを行った。

団体は、空き家等の準備にかかる事務的な業務に加えて、クリエイティブ人材の受入や同人材と地域住民の仲介等を担った。クリエイティブ人材は、Aプログラムではアートプロジェクトの企画・実践、Bプログラムでは空き家を活用したアートプロジェクトの企画提案を目指した。

A プログラム 東伊豆町稲取地区

合同会社 so-an

きぶかえい 癸生川栄 (eitoeiko) [ディレクター]

これまでも空き家活用を実践してきた団体が、郷土の偉人にゆかりがある空き家の活用を進めるにあたり、クリエイティブ人材のリサーチ力に期待をして本プログラムに応募。マッチングされた癸生川氏は、かつてここに住んでいた人物を知る年配住民へのヒアリングや、地域の文化的側面に関するリサーチ等を重ね、建物を地域の文化拠点として活用するための方向性を提示した。その後、癸生川氏が招聘したアーティストによるワークショップ等を実施し、最終的にまち歩きと合わせて楽しめる「イナトリ・アート・フェス」の開催につながった。

12月 3回目の滞在

稲取中学校吹奏楽部との映像収録

廃部が迫る稲取中学校・稲取高校の吹奏楽部に活躍の機会をつくるため、部員を空き家に呼び、東伊豆町の歌を演奏する様子を映像収録。作曲家の木下正道氏も関わり、即興で編曲も行われた。



対象物件の片づけと清掃

「大学生たちと空き家を掃除して初めて建物自体のおもしろさが見え、ようやくここで何かができそうという感触を得られた」と癸生川氏。



所有者、および関係者へのインタビュー

稲取の隠れ名スポットを激写する「写真ワークショップ」開催

稲取地区のいいところを住民自ら発見、表現することを目指して、写真家の大洲大作氏に講師を依頼。大洲氏は今回を機に稲取を気に入り、その後も自主的に訪れている。



© 大洲大作

2023年

1回目の滞在 10月

リサーチ、企画検討

あまり手の入っていない空き家を初めて見学し、「自分がこの事業で何をしていくべきか分からず不安になった」と癸生川氏。

2回目の滞在 11月

「あさになったのでまどをあけますよ」という荒井良二作の絵本がある。ページをめくるとき、タイトルの一文とともに世界中の朝が展開される物語で、朝一番の窓を開けたときに取り込む新鮮な空気と清々しい光を感じさせる作品だ。「fresh air」というタイトルに、私はこの絵本のようなイメージを重ねている。

今回、空き家活用分野との連携を提案したのは、これまでアーツカウンシルしずおかが支援してきたアートプロジェクト等で、空き家や廃工場等の遊休施設を舞台にした事例がいくつかあり、空き家活用とアートプロジェクトは親和性が高いと感じていたからだ。調査を進めていくうち、アートプロジェクトと空き家の親和性を考える前提として、アーティストたち「クリエイティブ人材」の存在が鍵であると感じられるようになった。

アートによる空き家活用ワーキンググループのメンバー、株式会社マチモリ不動産の三好明氏は、アーティストとの関わりの中で得た目からウロコの体験を共有してくれた。屋根に穴の空いた物件をアーティストに紹介した際、アーティストは「あそこから光が取れる！」と喜んでいただいていた。一般的には手が負えないと放置されていた物件にすら光を見出すクリエイティブ人材の視点であり、価値がゼロとされるものからイチの新しい価値を生み出そうとする彼らならではの態度なのである。

一方で、こうしたクリエイティブ人材の前向きな態度は、既存のコミュニティにとって「新鮮な空気（fresh air）」になるときもあれば、ハレーションとなって波紋を広げることもある。そう言うとネガティブに聞こえるが、三好氏が「そんなアーティストたちから『あなたならどう考えるか？』を問われてきた」と語るように、プロセスの中に生まれる人と人の出会い、対話、価値観のぶつかり合いなど、先入観に対する気づきこそがアートプロジェクトのおもしろみであり、価値であることを忘れてはならない。

今後人口減少が避けられない日本においては、関係人口創出の施策がますます強化されていくことが予想される。しかし、地域コミュニティが、異なる文化を背負った人々を受け入れていくには、ある程度の鍛錬が必要だ。ワーキンググループのメンバーで三島信用金庫の坂本剛宏氏は、「ハレーションをハレーションとして処理するのではなく、その後何を見出すかが重要」とも指摘している。価値観のぶつかり合いと対話の繰り返し、ハレーションをポジティブに受け止められるような、しなやかな地域を形作っていくのではないだろうか。空き家の利用を継続するだけが「活用」ではない。暫定利用の堆積が「活用」につながることもある。

「あさになったのでまどをあけますよ」。それほどに軽やかに、自然体で、空き家の扉を開けることができたなら。そんなことは理想論とはわかりつつ、妄想を楽しむその前向きさを大事にしていけたらと思う。



「あさになったのでまどをあけますよ」
荒井良二作・絵
偕成社 2011年

fresh air アートによる空き家活用の検討 （ワーキンググループ）

モデルプログラムと並行して、空き家活用に関わる有識者によるワーキンググループを設置し、アートによる空き家活用が地域にもたらす影響を専門的な観点から分析するとともに、その動きを波及・持続させるために必要な事項についての意見交換を行った。



意見交換会実施概要

| | |
|------|---|
| 日時 | 2023年10月25日（水）、11月15日（水）、12月6日（水） 2024年1月11日（木） 14:00～16:00 |
| 会場 | 下土狩駅前コワーキングスペース |
| 主な議題 | <ul style="list-style-type: none"> ● 空き家活用にアートを取り入れることに対する期待、課題 ● アートによる空き家活用の特徴と指標 ● アートによる空き家活用を促進する中間支援組織の必要性 |

ワーキンググループメンバー（順不同、敬称略）

- 座長／山田 知弘（有限会社日の出企画 代表取締役、アーツカウンシルしずおかアソシエイト）
- 後藤 昇（株式会社リビングディー第一建設 代表取締役）
- 坂本 剛宏（三島信用金庫、さんしんキャピタル株式会社）
- 戸井田 雄（混流温泉株式会社 代表取締役、アーティスト）
- 三好 明（株式会社マチモリ不動産 代表取締役）

考察と展望

「fresh air」は、アートプロジェクトの「まず、やってみる」という柔軟な姿勢や、アーティストの新しい視点や発想が、これまで動かなかった「空き家」を動かす原動力となり得るといふ仮説に基づき、立ち上げたパイロット事業である。近年では、空き家を住居として再生するだけでなく、まちづくりや観光、福祉、教育等の目的で活用することもあたりまえのように目にする。本事業では、地域振興に空き家を活用する際のアートの有用性を提案することを目指した。

モデルプログラムでは、アートプロジェクトが新たな人と人の交流を創出し、空き家はその受け皿として機能する様子が見られた。また、アーティストと地域住民の「共創」が、空き家での共通体験をつくるとともに、そこで生まれた作品が、場と人々をつなぐ結節点となり得ることも報告されている。ワーキングにおいては、空き家活用に関わる職種の異なる専門家から以下のような意見があり、アートの関わり方の有用性として共有された。

- ・アーティストは、不動産的価値や商業的活用が見込めない空き家に対しても将来性を見出す
- ・アートプロジェクトによる暫定利用を、空き家周辺の人の動き等を見極める機会とすることで、地域での次なる展開を考えるためのリソースとなる
- ・空き家所有者の気持ちに変化をもたらすきっかけになる

このように、アートによる空き家活用に期待できる効果は多岐にわたる一方で、空き家にまつわる状況は、制度や法律、慣習、多様なビジネスモデルなどが複雑に絡み合っているがゆえに、アートプロジェクトが単体で活用を進めるのは容易ではない。そのため、本ワーキンググループのメンバーのように、アーティスト等の発想を前向きに捉え、実現に向けた戦略を共に考える、意欲ある専門家の参入が必須であると言える。以上の成果をふまえ、次年度は、アートによる空き家活用の有用性を、空き家活用に関わる事業者に訴求するための具体的手段を検討していく予定である。

創造トークス

社会状況や課題に対して、その専門領域で様々な対策や取組が行われている。そうした状況や取組を知ると共に、そこに文化芸術が関わる可能性を探るセミナーを開催した。テーマに係る領域の関係者や、関心を寄せる方々が来場し、全国各地の取組や先進事例の紹介を受けた。中にはアートプロジェクトと銘打ってなくても、アーティスト発案のワークショップを活用して地域課題に取組む事例もあり、アートの関わりも示唆する内容だった。

1 高齢者

超老芸術は「文化」だ！
—超高齢社会における文化芸術の可能性—

日時 | 10月8日(日) 13:30～15:00
会場 | グランシップ2階映像ホール
参加者数 | 63人
ゲスト ■ 福住 廉 (美術評論家)
■ 上田 假奈代 (詩人、詩業家、堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター)
■ エドワード・M・ゴメズ (美術評論家、キュレーター)



2 コミュニティ政策

コミュニティを創造する
～どうする？どうなる コミュニティのニュースタイル～

日時 | 11月7日(火) 18:00～20:00
会場 | 妙祥寺
参加者数 | 68人
ゲスト ■ 牧野 篤 (東京大学大学院教育学研究科教授)
■ 宮城 潤 (那覇市若狭公民館館長)
■ 野嶋 京登 (富塚協働センター(浜松市職員))
■ 久保田 瑛 (NPO 法人クリエイティブサポートレッツ職員)



3 空き家

「空き家×アート」セミナー
空き家の新しい価値を見出す・ひらく

日時 | 12月15日(金) 14:00～16:00
会場 | 森町文化会館小ホール
参加者数 | 61人
ゲスト ■ 羽原 康恵 (取手アートプロジェクト包括ディレクター/アートマネージャー)
■ 山田 知弘 (有限会社日の出企画代表取締役)
事例紹介 ■ 一般社団法人モリマチリノベーション×遠藤七海 (ダンサー)
■ 合同会社 so-an × 癸生川栄 (ディレクター)
■ 龍山未来創造プロジェクト × スズキサチコ (美術家)
■ OKUSURUGABOARD × 吉野祥太郎 (アーティスト)



※ fresh air ～クリエイティブ人材による空き家等活用モデルプログラム～ (p47-49 参照)

M
A
W
茶
会

マイクロ・アート・ワーケーション (MAW・p38-41) が3年目を迎え、「滞在後もホストと旅人の関係が続いている」、「旅人自身の活動にも変化が生まれている」というエピソードを耳にする機会が増えてきたことから、旅人をゲストに招き、自身のことや滞在中のエピソードの深掘り、滞在後に起きた変化などについて聞く「MAW茶会～マイクロ・アート・ワーケーションのその後をゆるゆると追いかけるインスタライブ～」を全10回開催した。インタビューした内容はMAW noteで公開している。

日程 | 8月25日(金)、9月6日(水)、9月21日(木)、11月9日(木)、11月20日(月)、12月4日(月)、1月26日(金)、2月21日(水)、3月1日(金)、3月26日(火)
ゲスト ■ 原口みなみ (画家) ■ 癸生川栄 (eitoeiko ディレクター) ■ 菅原康太 (写真家)
■ 安藤智博 (しいいシティ代表) ■ さとうなつみ (美術家) ■ 本原令子 (陶芸家/美術家)
■ 安里 慎 (美術家) ■ 石黒健一 (アーティスト) ■ 高野ゆらこ (俳優) ■ 山中カメラ (現代音頭作曲家)
※出演順

noteはこちら



その他の取り組み

まちづくりや観光、福祉、教育、産業など様々な分野において、視点を変えることから新たな展開を見出そうとする企業や団体、自治体に対して、意見交換や試行的な取組を行うためにアーティストなどのクリエイティブ人材を派遣する制度。今年度は2つの団体に延べ6名のクリエイティブ人材を派遣した。

株式会社 中島屋ホテルズ

1916年に創業し、静岡県中部でホテル・レストラン事業を展開する株式会社中島屋ホテルズに対して、幹部職員向けの職員研修と、伝統工芸技術の活用方法に関する意見交換のために、クリエイティブ人材を派遣した。アーティストのEAT & ART TARO氏と、アートプロデューサーの橋本誠氏を講師に迎え、手紙の代わりに食べ物を送り合う「食通」というプログラムを実施。食べ物という馴染みのあるテーマを通じて、同社がこだわる「ローカル」を見つめ直す機会とした。プロダクト・デザイナーのUOと行った伝統工芸技術についての意見交換と、静岡市でまちづくりに取組むシズオカオーケストラとの出会いは、それぞれ改めて制作物の依頼に発展した。



日程 | 4月～3月
派遣者名 ■ EAT & ART TARO (現代美術アーティスト)
■ UO (プロダクトデザイン事務所)
■ 井上 泉 (シズオカオーケストラ代表)
■ 高橋麻衣 (八戸美術館学芸員)
■ 橋本誠 (合同会社生活と表現)

ふじのくにに住みかえる推進本部



日程 | 12月～2月
派遣者名 | ■ 柏木陽 (演劇家、NPO法人演劇百貨店代表)

移住促進を目的とした静岡まるごと移住フェアの会場にて、来場してはいるが移住を検討する段階にない漠然層とのコミュニケーション促進を図るためのツール制作に対して、演劇家の柏木陽氏を派遣した。床に敷く大判のYES/NO診断のような想定を事前に決めていた中で、設問項目や、使用方法、流れの想定などについて、ワークショップのように担当者たちから意見を引き出し、想定問答のシミュレーションも実施した。最終的に、YES/NO診断の形をとりながらも、答えにたどり着かない形式とすることで、現場スタッフが声をかけるタイミングが生まれる仕掛けのシートが出来上がり、実際にイベント会場で使用された。

クリエイティブ人材派遣制度

相談窓口

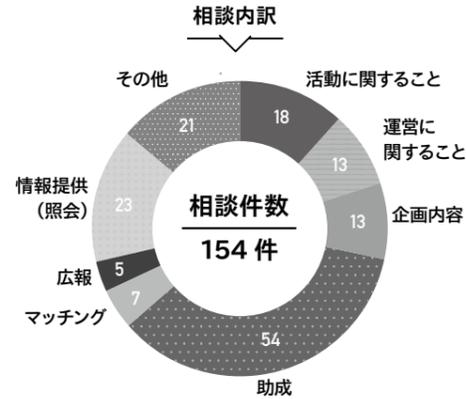
アートプロジェクトの主催者、アーティストや文化拠点の運営者、アーティストとのつながりを持ちたい企業など、県内を中心に文化・芸術に関連した活動をサポートする無料相談窓口を開設している。

相談対応者

- 👤 プログラム・ディレクター、コーディネーター (PD・PC)
- 👤 弁護士・税理士・中小企業診断士
- 👤 特別相談員 / 平野雅彦

プロフィール

静岡県広報業務アドバイザー、元国立大学法人静岡大学特任教授、客員教授。静岡市及び三島市文化振興審議会会長。各種コンクール審査員、芸術祭ディレクター、パネルディスカッションのコーディネーター、執筆等多数。



case 1

障がいを持つ方々向けのワークショップを主宰している。現在、耳の不自由な子どもたちを対象とした身体表現ワークショップを企画。子どもなら誰でも参加できる形式とし、当事者の存在を知ってもらえる機会にもなればと考えているが、どのような方向性で進めていくとよいだろうか。

SUGGESTION
ワークショップを話し合いの場として位置づけ、率直に意見を言い合い、聞ける時間とするのはどうか。参加した子ども達が何をもち帰れるかを軸に置き、ワーク中にコミュニケーションする機会をつくらせたり、得意なことを表現する仕掛けをつくる等して、流れの中で自然と知ることへのつながり考えてみては。



case 2

作家活動が今ひとつ軌道に乗らず、今後どのように活動を展開させようか考えあぐねている。わずかな可能性でもよいので、今後の活動のヒントを見つけたい。

SUGGESTION
作品「ペーパーキルト」が出版物の装丁に採用された経験があるとのこと。待ちの姿勢ではなく、ポートフォリオをイメージに合致した出版社に送る等して、装丁や挿画に使われるチャンスを増やすのもよいかもしれない。また、作品に自身の詩を添える試みをしているとのことなので、詩を入口にして、ペーパーキルトを知ってもらおうという、逆の方法も模索できるのではないか。



文化とくらしに関する意識調査

ArtSの助成制度等の制度設計、事業計画立案、政策提言へ活用することを目的として、静岡県民が文化や地域社会に関してどのように感じ、どのように文化芸術活動が行われているかを把握するためのアンケート調査を実施した。

調査時期 | 3月

調査対象 | 静岡県在住者 1,000人

- 設問
- ・文化芸術活動への参加状況、地域課題の認識と対応状況
 - ・地域資源に関する意識
 - ・アートプロジェクトに関する認識と期待度 など

アートプロジェクトのつくり方『きかくの場』



- 日程 | 第1回 / 6月25日(日)
第2回 / 9月9日(土)
第3回 / 12月10日(日)
- 会場 | グランシップ908会議室(第1回、第3回)
グランシップ映像ホール(第2回)
- 講師 | [全3回共通] 小澤慶介
(一般社団法人アート代表理事、インディペンデント・キュレーター)
- ゲスト(話題提供者) | 第1回 井上泉(シズオカオーケストラ)
第2回 酒井田愛香(NPO法人静岡あたらしい学校)
- 参加者 | 県内在住在勤者 20名(団体職員、農業従事者、アーティストなど)

市民が地域と関わりながら社会をより良くすることを目指す「アートプロジェクト」の担い手育成のための研修講座。プロジェクトの企画立案を通して、地域を見つめる細やかな視点を身につけ、静岡県内でアートプロジェクトの担い手として活躍してもらいたいことを期待し、アートで地域を盛り上げたい人から、自分の想いを企画してみたい人まで、幅広く参加者を募集した。

インディペンデント・キュレーターでありながら、長年現代アートを巡る教育プログラムに携わってきた小澤慶介さんを講師に迎え、受講生同士や静岡県内で創造的な実践を展開している話題提供者との対話を重ねながら、参加者自身の企画を練り上げていく全3回の講座を開催した。

第2回アートプロジェクト視察研修



ArtSでは、県内各地でアートプロジェクトが展開されることを目標としているが、アートプロジェクトは比較的新しい概念であり、関心があったとしても、多くの人は事業のイメージを描きにくい。そのため、県の各地域局職員や、観光、移住、文化等に携わる市町職員、まちづくりや文化関連団体の構成員などを主な対象として、実際にその現場を見てもらう視察研修を実施した。視察を通して参加者らがアートを活用した地域づくりのイメージを広げ、今後の活動に活かされることを期待し、2021年度に続き2回目の開催となった。

地域局ごと4回に分けて「Cliff Edge Project うぶすなの水文学」を視察

- 実施日程 | 10月27日(金) 東部地域局管内
10月30日(月) 西部地域局管内
11月2日(木) 賀茂地域局管内
11月6日(月) 中部地域局管内
- 参加者 | 27人(行政、まちづくり・文化団体、企業、地域住民等)

Cliff Edge Project うぶすなの水文学 (p23参照)
主催: Cliff Edge Project
会場: 貴僧坊水神社、貴僧坊の里、井上倉庫ほか



「みんなでつくり、みんなで楽しむ」

アートプロジェクトの原点は郷土芸能にあり

アーツカウンシルしずおかは、すべての県民が、様々な表現活動を通して創造的になることを目指している。その理由を考えてみたい。

静岡県が世界に誇る劇団である静岡県舞台芸術センター（SPAC）は、毎年春に演劇祭（ふじのくにせいかい演劇祭）を開催している。

2023年のプログラムに、アン・ウンミの演出による『グランマを踊る』があった。10名のグランマ、つまり普通のおばあちやまたちが、若いダンサーと躍るのだが、そのグランマたちの生活の中での動きを取り入れて作品がつけられた。つまり、グランマがプロに習うのではなく、グランマの動きをプロが見習って一緒に踊るのである。グランマたちにとって貴重な創造体験となり、最後には会場も交えたカチャーシーのように盛りが上がった。

これは高齢者の表現活動の重要性、可能性を示しており、櫛野チーフプログラム・ディレクターが提唱して、アーツカウンシルしずおかで展開している『超老芸術』にも通じる。ダンス、演劇、美術、音

楽だけではなく、幅広い生活文化を含めて、高齢者の表現活動は、生きがいを生み出す要であり、これから取り組むべき重要課題の一つである。

また、ダンスは子どもたちや若者に変な人気があり、その自由な発想に基づく創造性を引き出すうえで、大きな可能性を秘めており、子どもたちの表現活動を推進するには、文化施設はもっとダンスプログラムを取り入れていく必要があるだろう。

2024年の演劇祭の『かちかち山の台所』という演目では、舞台上で演じられる普通の芝居とは違って、舞台芸術公園のある日本平の山と平沢観音堂のある平沢集落を歩いた。山歩きの合間に、展開される物語を味わいつつも、それ以上に、新緑にけむる木々の多彩な美しさに見入ってしまう。シロツメグサを見ては首飾りをつくりたくなり、羊歯の二本の枝をV字に切り取れば、鳥の羽のように遠くまで飛ぶことに感動する。文化施設から飛び出して、野に出るプロジェクト型のアート活動は、食とも結びつく。ここでも、栗餅、鶏汁、豆ご飯のお握りが振舞

われた。文化芸術活動は、喫茶や食はもちろん、生活の中にこそ存在してきたことを示している。石神夏希の演出による山歩きによって、思いがけない創造体験をする。SPACの今後はますます期待が持てる。

これまで、芸術というと、才能に恵まれた特別の人が、努力の積み重ねの中で生み出したもので、一般人は、それを鑑賞する、という考え方が根深く存在してきた。たしかに鑑賞も不可欠だが、しかし、あなた創る人、私たち鑑賞する人、という区分を維持したままでは、逆に文化芸術を私たちの生活から切り離し、遠ざけることにもなる。

アーツカウンシルしずおかが重視しているのは、みんなで作ったり、みんなが楽しむ文化芸術活動の推進である。つまり、鑑賞以上に創造体験を重視している。したがって、こうした文化芸術活動であるアートプロジェクトを推進するのである。県民の文化度を上げるのが文化政策の目的だとすれば、こうした手法の方が、はるかに投資効率がよく、政策効果が高い。

実は、アートプロジェクトの手法は、昔からあったのではない。神楽、祭りのような郷土芸能、民俗芸能は、みんなで作ったり、みんなが楽しむという構造が基本だった。

たとえば、御殿場市の沼田と大坂の湯立神楽のような技術的に洗練された神楽もあり、一方で、浜

松市の横尾歌舞伎のような素朴^く掘すべき郷土芸能もある。いずれも地域の人がびとが共同でつくり上げ、地域の生活の中の重要な節目として行われる。

神楽や祭りに代表される郷土芸能は、文化芸術の専門家による表現活動ではなく、地域の人々の生活の中で培われてきた。その芸能を育んできた時代の制約を受けて、参加者が制限されたり、秘儀とされたりする場合もあるが、多くは地元の関係者が総出で参加することで成立する、地域に深く根差した表現活動である。その意味で、郷土芸能はアートプロジェクトそのものであり、もっと郷土芸能に着目する必要があるだろう。

郷土芸能は県下にも多数ある。しかし、一方では新興の都市部など、郷土芸能の全くない地域も少なくなく、またたとえこうした芸能があっても、新住民が参画する機会に恵まれない場合も多い。こうした場合には、新たなアートプロジェクトを生み出す必要がある。創造の過程には、アーティストにも大きな役割がある。新旧いずれにしても、アートプロジェクトを通して、県民全てが文化芸術の当事者になることを目指しているのである。

わたしたちの活動は、多くの県民との協働によって成り立っている。今後とも、福祉、環境、企業、観光など様々な領域との連携もさらに深め、役立つアーツカウンシルを目指していきたい。引き続きのご指導、ご支援をどうぞよろしく。



加藤種男（静岡県文化財団副理事長 アーツカウンシルしずおかアーツカウンシル長）

アートプロジェクトのネットワーク化を掲げ、企業、行政、公益団体などを横断して文化政策を推進。芸術文化を専門家の独占から解放し、コミュニティの再生と新たな社会創造への源泉ととらえ、個人の表現にとどまらない、市民主体のプロジェクト型の協働表現を、「祝祭芸術」と名付けて展開している。企業メセナを長らく担当し、あわせて、アートNPOの全国ネットワークの形成、横浜をはじめとする文化芸術創造都市の推進、東日本大震災の芸術文化による復興支援などにかかわってきた。京都造形芸術大学客員教授、東京都歴史文化財団エグゼクティブアドバイザーなどを歴任。著書『芸術文化の投資効果』『祝祭芸術』など。芸術選奨文部科学大臣賞受賞。

数字で見る 2023年度のアーツカウンシルしずおか

「文化芸術による地域振興プログラム」

助成事業採択件数

助成事業応募件数

26件

【実施地域】

| | |
|----------|----------|
| 下田市 / 1件 | 三島市 / 2件 |
| 松崎町 / 1件 | 富士市 / 2件 |
| 河津町 / 1件 | 静岡市 / 3件 |
| 伊東市 / 1件 | 藤枝市 / 2件 |
| 伊豆市 / 1件 | 島田市 / 1件 |
| 沼津市 / 3件 | 浜松市 / 2件 |
| 熱海市 / 5件 | 湖西市 / 1件 |

108件

マイクロ・アート・ワーケーション

MAW 旅人

MAW ホスト

37人

×

13団体

【旅人居住地】
東京都(9)、静岡県(5)、神奈川県(3)、群馬県(2)、埼玉県(2)、茨城県(2)、京都府(2)、大分県(2)、千葉県、石川県、山梨県、岐阜県、滋賀県、広島県、愛媛県、熊本県、沖縄県

MAW 旅人応募人数

125人

【実施地域】
南伊豆町、河津町、東伊豆町、御殿場市、小山町、静岡市、藤枝市(2)、牧之原市、御前崎市、菊川市、浜松市、湖西市

「超老芸術展」
来場者(6日間)

1,767名

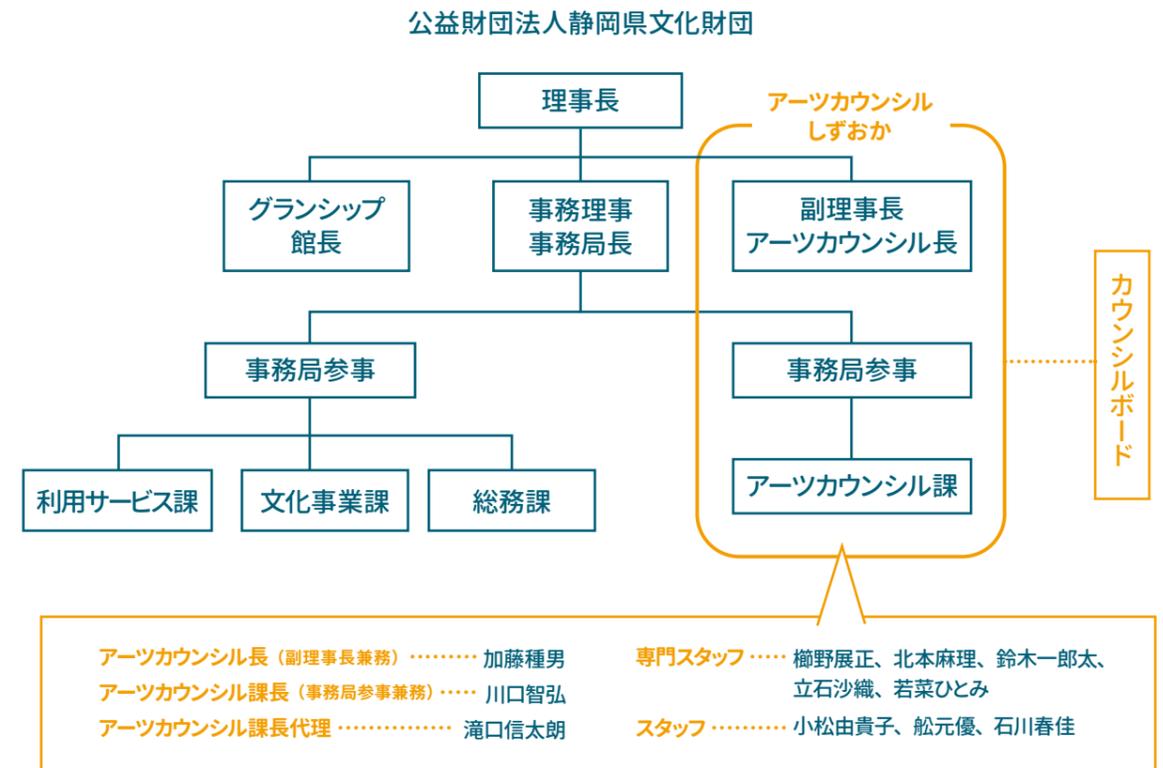
PD (プログラムディレクター)・PC (プログラムコーディネーター) 出張件数

298件

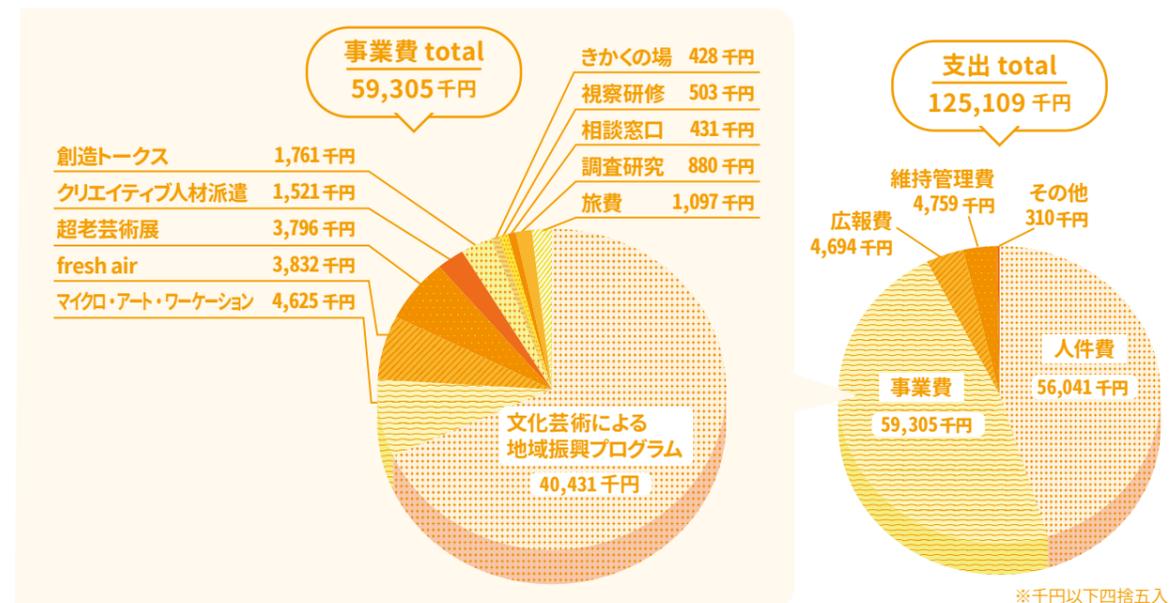
ArtS 関連の新聞記事掲載数

45件

体制図



2023年度(令和5年度) 事業費



超老芸術展



静岡鉄道車内戸袋ポスター
デザイン：桑田亜由子



B2 ポスター、チラシ、Web パナー
デザイン：株式会社電通東日本

JR 静岡駅地下道看板
デザイン：アーツカウンシルしずおか

ウェブパナー



きかくの場、創造トークス

ArtS ノベルティグッズ



(デザイン：齋藤智仁)

アーツカウンシルしずおか
アニュアルレポート 2022
(デザイン：株式会社共立アイコム)



マイクロ・アート・ワーケーション
2023 ポスター
(デザイン：桑田亜由子)



「文化芸術による地域振興プログラム」
2023年度助成事業紹介リーフレット
(デザイン：明和印刷株式会社)



「文化芸術による地域振興プログラム」
2024年度助成事業募集チラシ
(デザイン：桑田亜由子)



アーツカウンシルしずおかの取組を周知するべく、フライヤー、ポスターといった紙媒体、ウェブサイト、SNS 等を通じて多彩な広報展開を行った。

相談窓口チラシ

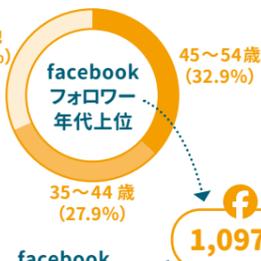
(デザイン：星光社印刷株式会社)



ウェブサイト

年間総アクセス数
96,002
年間総ユニークアクセス数
58,529
最もアクセスの多かった月
10月
アクセスが最も多かった日
10月6日
最もよく見られたページ
「超老芸術展」

その他 (39.2%)



SNS

SNSフォロワー数
(2024/3/31 時点)



「いいね」が最も多かった
instagram 投稿
「びじゅつじょろん 6 感芸術祭」
に行ってきました! (2024/3/3)

facebook
フォロワー
地域上位
静岡市
浜松市
横浜市
三島市
京都市

「いいね」が最も多かった
facebook 投稿
「超老芸術展～遅咲きのトップランナー大暴走!」
開催のお知らせ (2023/8/28)

リーチが最も多かった
facebook 投稿
「メタバース超老芸術展」
オープンのお知らせ (2023/12/25)

※上記データの集計期間は 2023年4月1日～2024年3月31日です。

fresh air



ロゴ (事業全体、クリエイティブ人材公募)

ウェブパナー (事業全体、クリエイティブ人材公募)
(デザイン：混流温泉株式会社)

ArtS の専門スタッフおすすめの本や資料をご紹介します。アートプロジェクトを企画したり、実施したりする際の参考にしてください。

アートプロジェクト事例

アートプロジェクト (芸術と共創する社会)

熊倉純子 (監修)、菊池拓児 (編集)
長津結一郎 (編集)
発行：水曜社 2014 年

危機の時代を生き延びるアートプロジェクト

影山裕樹、橋本誠
発行：千十一編集室 2021 年

祝祭芸術 再生と創造のアートプロジェクト

加藤種男
発行：水曜社 2022 年

いろいろな視点

なんだこれ?!のつくりかた

なんだこれ?!サークル (著)、
岩瀬拓郎 (編集)
発行：一般社団法人タチヨ 2022 年

わかりやすい言葉と多くの作品図版と一緒に「なんだこれ?!」の視点を軸にして紹介されています。物事の見方や発想の幅を広げる、アート思考のスイッチを ON にするきっかけになるかも。

× ART スタートアップガイドライン

経済産業省 商務・サービスグループ
クールジャパン政策課 (企画)
発行：経済産業省 2024 年

どんな価値を生むのか?、どんな文脈で実施されるのか?、続けるために必要なこと?など、アートプロジェクト実施にまつわる諸々が、フローチャートやイラストをふんだんにつかって紹介されています。



ヴァナキュラー・アートの民俗学

菅豊 (編集)
発行：東京大学出版会 2024 年

中高年の主婦が作る手工芸品の総称である「おかんアート」や超老芸術、お土産文化にお地蔵さんのマフラー、タビオカに在日フィリピン人の歌コンテストまで、普通の人々のありきたりで平凡な日常の創作活動である「ヴァナキュラー・アート」を真面目に論じた学術書。表現の幅やアートの見方が変わること間違いなし!!

進化思考—生き残るコンセプトをつくる「変異と適応」

太刀川英輔
発行：海士の風 2021 年

創造の方法を、進化論に紐づけて説いた1冊。創造は一部の賢い人や、センスのある人だけの能力ではなく、生物や自然の進化の過程で起きていた「変異と適応」を転用することで誰にでもできると説かれている。プロジェクトの新たな展開を模索している方はぜひ。

日本のシビックエコノミー 私たちが小さな経済を生み出す方法

江口晋太郎、太田佳織、小西智都子、
紫牟田伸子
発行：フィルムアート社 2016 年

市民の自発的で公益的な活動を広く紹介した本。類似事例も含めると 80 の活動が紹介されており、アートプロジェクトに限定していないが、見据える先に共通点がある。「シビックエコノミー—世界に学ぶ小さな経済のつくり方」(2014 年)に対する日本版アンサー的な書籍。

法のデザイン —創造性とイノベーションは法によって加速する

水野祐
発行：フィルムアート社 2017 年

この本には、法律や規則、制度等の社会的ルールを、「敵と見なす」のではなく「主体的に使いこなす」面白さが記されています。ルールによって自由でイノベティブな「余白」を創りだす。そんな著者の気概に、あなたのクリエイティブ魂もきっと触発されることでしょう!

その他

ドリームホース

ユーロス・リン (監督)
2020 年

夫と二人暮らしで、パートと親の介護だけの人生を送っていた主人公が、ある日突然「競走馬」を育てる話。目的はお金ではない。主人公は「ただ、朝に期待を抱いて目覚めたい」と話す。アートプロジェクトだってきっと同じで、誰かがワクワクしながら目覚めるための助けになるはず。最後はガッツポーズで締めくくられるハッピー映画。

ぎりぎり限界集落温泉 (全4巻)

鈴木みそ
発行：エンターブレイン 2010 年 (第 1 巻)

下田市出身の作者が描いた、伊豆を舞台にした温泉旅館再興コメディ漫画。かつての売れっ子ゲームクリエイターが、個性強めな旅人たちと一緒に廃業寸前の温泉旅館を立て直すことになるというお話。サブカルコンテンツを使った地域おこしが目立ちますが、ファン技術や知識という、人の力が引き出されていく様子がアートプロジェクトを思わせる作品です。全4巻。

ちいさいおうち

バージニア・リー・バートン (作・絵)
石井桃子 (訳)
発行：岩波書店 1954 年

美しく豊かな自然に建つ小さいおうち。表紙の微笑むようなおうちを、誰もが一度は目にしたはず。利便性を追求し失ったもの、補うのは孫のやさしい気持ち。おうちは何も語りませんが、周りの環境や住人の気持ちの変化を読み取り、老いも若さも互いの記憶との対話を始められる絵本です。

新聞

興味のある分野・課題が、世の中でどのように扱われているのかを知っておいて損はない。新聞は、記事の場所や大きさから、それらを感じ読めることができる便利なツール。また、関心のない事柄が目に入ってくるのも大きな利点。今は関係性が見えない事柄同士でも、のちに結びつくことがあるから面白い。

文化芸術と社会を結ぶアートマネジメントの専門家である専門スタッフに対し、多方面から講師や登壇の依頼があった。韓国での国際フォーラム登壇から、障害者アート展の審査員、ラジオ番組のトークゲストまで依頼は多岐に渡り、年間を通じて、ArtS の専門スタッフならではの視点と知見が様々な場面で求められた。

| 派遣日 | 派遣期間 | 件名 | 依頼者 | 出席者 |
|-----------|------|--|----------------------------------|-------|
| 4/26 | | SBS ラジオ「ゴゴボラケ」出演 | 静岡放送株式会社 | 立石沙織 |
| 5/1 | | 「探求と表現」講師 | 静岡県立沼津高等学校 | 鈴木一郎太 |
| 5月 | | irodori プロジェクトアドバイザー | irodori プロジェクト | 榎野展正 |
| 6/16 | | 「文化都市洪城有機的国際フォーラム」登壇 (洪城郡) | juice company | 鈴木一郎太 |
| 6/17 | | 「楊林路地ビエンナーレ」セミナー講師 (光州広域市) | juice company | 鈴木一郎太 |
| 6.9月 | | Art to You! 東北障がい者芸術全国公募展審査員 | 公益社団法人東北障がい者芸術支援機構 | 榎野展正 |
| 6月~2024.1 | | 日本財団助成事業 ファシリテーター | 特定非営利活動法人こころのまま | 榎野展正 |
| 7/20 | | 令和 5 年度ふじのくにに住みかえる推進本部全体会 事例発表 | ふじのくにに住みかえる推進本部 | 立石沙織 |
| 8/1 | | 「未来を切り拓く Dream 授業」講師 | 静岡県 | 榎野展正 |
| 8/24 | | 市町社会福祉協議会福祉教育担当者会議 グループワーク講師 | 静岡県社会福祉協議会 | 鈴木一郎太 |
| 8/25 | | TOKYO FM ラジオ番組『ドリームハート』出演 | 株式会社エフエム東京 | 榎野展正 |
| 10月 | | アート専門 YouTube チャンネル「MEET YOUR ART」出演 | エイベックス株式会社 | 榎野展正 |
| 10/16 | | 令和 5 年度対日理解促進交流プログラム「MIRAI2023」オンライン交流講師 | 一般社団法人日本国際協力センター | 鈴木一郎太 |
| 10/25 | | 「アート・アクティビティ B」講師 | 女子美術大学 | 鈴木一郎太 |
| 10/25 | | 静岡県障害者芸術祭審査員 | 株式会社ビーエーシー | 榎野展正 |
| 11/3 | | アートと障害を考えるネットワークフォーラム 2023 登壇 | 滋賀県 | 榎野展正 |
| 11/8 | | 安里槇×堀園実×丹治りえ グループ展「beyond the Timberline / 森林限界を越えて」関連トークイベント 登壇 | 安里槇 | 立石沙織 |
| 11/20 | | コミュニティスペース「沼津コート」Instagram ライブ トークゲスト | 沼津コート | 立石沙織 |
| 11/24 | | 令和 5 年度えひめの障がい者アート展審査員 | 愛媛県社会福祉事業団 | 榎野展正 |
| 12/6 | | 島根県障がい者アート作品展審査員 | 島根県障がい者文化芸術活動支援センター | 榎野展正 |
| 1月 | | パラリンアート世界大会 2023 審査員長 | 株式会社パラリンアート | 榎野展正 |
| 1/16 | | オンライン講座「アーツカウンシルってなあに?」ゲスト講師 | アーツカウンシル友の会、北海道教育大学岩見沢校芸術文化政策研究室 | 鈴木一郎太 |
| 1/20 | | あいちアール・ブリュットサテライト展トーク | 特定非営利活動法人 BLUE | 榎野展正 |
| 1/21 | | 若井垂矢子作品展でのギャラリートーク | 特定非営利活動法人 BLUE | 榎野展正 |
| 1/31 | | 芸術文化学科「ゼミ生との意見交換会」ゲスト | 静岡文化芸術大学文化政策学部佐藤良子ゼミ | 北本麻理 |
| 2~3月 | | NTT アートコンテスト 2023 審査員 | 一般社団法人障がい者自立推進機構 | 榎野展正 |
| 3/4 | | ふじのくに子ども芸術大学公募型講座 プレゼンテーション審査 審査員 | 静岡県 | 若菜ひとみ |
| 3/10 | | トークイベント「アート×社会連携とは?他地域の事例から探る」登壇 | クリエイティブ・リンク・ナゴヤ、名古屋市 | 北本麻理 |
| 3/12 | | 山口源没後 50 年記念事業検討懇話会 委員 | 沼津市教育委員会 | 北本麻理 |
| 3/23 | | 日本アートマネジメント学会関東部会第 2 回研究会講師 | 日本アートマネジメント学会 | 榎野展正 |
| 3/27 | | 令和 5 年度アーツカウンシル金沢活動報告会・交流会&フォーラム「震災とアート」フォーラム登壇 | アーツカウンシル金沢 | 加藤種男 |
| 3/27 | | 令和 5 年度アーツカウンシル金沢活動報告会 講師 | アーツカウンシル金沢 | 鈴木一郎太 |

2023年度アーツカウンシルしずおか
アニュアルレポート

発行日 2024年7月

発行者 アーツカウンシルしずおか
(公益財団法人静岡県文化財団)

〒422-8019

静岡県静岡市駿河区東静岡

二丁目3番1号 グランシップ1F

[TEL] 054-204-0059

[FAX] 054-288-8180

[mail] info@artscouncil-shizuoka.jp

[WEB] <http://artscouncil-shizuoka.jp>

編集 アーツカウンシルしずおか

デザイン 桑田亜由子

執筆 神尾知里 (p.16)

撮影 鈴木竜一郎 (p.1,2,4,5)、おさだひろみ (p.3)

印刷・製本 明和印刷株式会社